

27. 芸術工学府

- I 芸術工学府の教育目的と特徴 27- 2
- II 「教育の水準」の分析・判定 27- 3
 - 分析項目 I 教育活動の状況 27- 3
 - 分析項目 II 教育成果の状況 27-28
- III 「質の向上度」の分析 27-59

I 芸術工学府の教育目的と特徴

- 1 「技術の人間化」、すなわち技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神のもっとも自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる論理的思考力と芸術的感性を基盤とする「高次のデザイナー」養成を教育の目的としている。
- 2 「芸術工学専攻」及び「デザインストラテジー専攻」の2専攻からなる。
- 3 ミッションの再定義において、感性研究、しくみ設計、イノベーション創出において指導的役割を果たす人材養成を明確にしている。
- 4 学位論文の予備審査の申請条件を芸術表現・デザインの実践に基づく研究を行う、いわゆるクリエータ系の博士後期課程学生へ配慮した内容に改めた。
- 5 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「教育においては、確かな学問体系に立脚し、学際的な新たな学問領域を重視しながら、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材を育成する。」を踏まえている。

[想定する関係者とその期待]

高次の設計能力（感性研究、しくみ設計、イノベーション創出において創造的・先導的役割を果たす能力）を持った指導的な実務者の育成を求める産業界・地域・国際社会の期待、高度な専門知識や技術や企画・立案能力を習得して幅広く社会で活躍することを望む学府受験生、在学生の期待に対し、教育組織及び教育課程を改善して、教育研究を実施している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 1-1 教育実施体制

(観点に係る状況)

1-1-1 組織編成上の工夫

1-1-1-① 教員組織編成や教育体制の工夫とその効果

1) 学府・専攻の構成・責任体制

芸術工学専攻に5つのコースを設置し、デザインストラテジー専攻と連携して、最先端の教育を体系的・効果的に実施することができる構成となっている。加えて、芸術工学専攻の博士後期課程には、授業や研究指導のすべてを英語で行うデザイン人間科学国際コースを設置している(資料1)。

○資料1 学府・専攻の構成・責任体制

専攻		責任部局
芸術工学専攻	デザイン人間科学コース	修士
		博士後期
	コミュニケーションデザイン科学コース	修士
		博士後期
	環境・遺産デザインコース	修士
		博士後期
	コンテンツ・クリエイティブデザインコース	修士
		博士後期
	デザイン人間科学国際コース	博士後期
	デザインストラテジー専攻	修士
博士後期		
		芸術工学研究院、基幹教育院
		芸術工学研究院

2) 実務経験を有する教員の配置状況

イノベーション創出にはデザインの実務経験を有する教員の配置は不可欠であり、その約40%はデザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員として分類できる。配置状況は、資料2に示すとおり、デザイン分野での企画、デザインイノベーションなどに関わる実務経験を有している。

○資料2 実務経験を有する教員の配置状況(平成27年5月1日現在)

実務経験の内容(主なもの)	
教授: デザイン分野での企画等に関わる実務経験	
教授: デザインイノベーションに関わる実務経験	
教授: プロジェクトマネジメントデザインに関わる実務経験	
准教授: デザインインテグレーションに関わる実務経験	
現職種 36人	実務経験の具体的な職種名(主なもの) 【特に本学部の特徴を顕著に示しているものに下線を引く。】
教授 14人	建設機械メーカーの研究開発部の研究開発員 自動車メーカーの <u>デザイン部のエクステリア・インテリア・アドバイザデザイナー</u> 自動車デザイン企業の <u>デザインセンターのシニアデザイナー</u> インダストリアルデザイン研究所の <u>デザインセンターのグラフィックデザイナー</u> データ処理サービス会社の取締役 建設関連会社の技術研究部部长 フリーランス作曲家 広告会社のプランナー・企画職・ディレクター・部長

准教授 19人	<p>出版会社の<u>デザイン編集部</u>記者 フリーランス編集者 <u>Web制作会社のプロデューサー</u> 電気通信関連企業のマネージャー <u>都市・建築設計研究所の設計業務</u> <u>設計事務所の建築設計・管理業務</u> 百貨店の外商事業部<u>建装部設計管理担当</u> 金属加工企業の<u>デザインデザイナー・ディレクター</u> 画家 <u>ソフトウェア会社の指導員・ディレクター・コンテンツ課長</u> 電器メーカーのカテゴリリーダー 青年海外協力隊の<u>美術隊員</u> 製薬会社の情報システム部員 電器メーカーのシステム設計部企画員 <u>建設会社の建築職</u> 地方自治体の文化観光局の<u>美術学芸員</u></p>
助教 3人	<p><u>フリーランスアートディレクター</u> ネット販売会社の<u>デザイナー</u> ユネスコの<u>文化遺産専門国連ボランティア</u> ユネスコの<u>文化遺産協力保護事務所のコーディネーター</u> キャド制作会社の<u>デジタルアーカイブ・ラボ研究員</u></p>

3) 組織編成に関する特徴

学内組織である統合新領域学府・ユーザー感性学専攻と芸術工学府デザインストラテジー専攻の教員を中心に、感性価値クリエーションなどに関する教育研究を連携するなどの工夫を行っている（資料3）。

○資料3 統合新領域学府・ユーザー感性学専攻との教育連携

【概要】社会が求める価値は今日、ものの機能・信頼性・価格といった客観要素から、人の心地・感覚・感動といった感性的・主観的なものに移行しつつある。このため、価値の創造を人の感性と行動に着目しながら、作り手・売り手・使い手の取組の連鎖としてとらえ、ユーザーの感性的な価値を抽出・形成・評価する手法と、一連の過程を統合するマネジメントについて学ぶ。感性価値を引き出すマーケティングやブランディングなどの企画力、感性の価値を表現するアートやデザインによる創造力、感性評価を客観的に評価する判断力の特性に着目し、文理の区分を超え、多様な専門分野の人材に開かれたプログラムとしている。

【科目名】次世代感性産業論、ブランド価値創成論、情報価値編集論、関係のデザイン論、景観価値形成論、自然環境価値形成論、地域文化デザイン論、クオリティカルテ価値評価論、プロジェクトマネジメント論、感性価値認知論、ユーザー参加型デザイン論、感性価値抽出論、感性マーケティング

4) 組織体制の改善の取組

教員の教育研究力の向上のために、平成25年10月の研究院改組の実施やデザインなどの実務経験教員の作品による業績評価の実施など、「5年目評価、10年以内組織見直し」制度において第1期中期目標期間に指摘された課題の解決に資するものとなっており、着実に効果が現れつつある（資料4）。

○資料4 「5年目評価、10年以内組織見直し」制度で指摘された課題と改善の取組

<p>「5年目評価、10年以内組織見直し」制度（注）で指摘された課題（平成21年8月4日）</p> <p>①「学府の入学定員の充足率の適正化」：主に下記の取組の（1）、（2）、（4）で対応 ②「教授の専攻分野の見直し」：下記の取組の（1）～（5）で対応 ③「博士学位授与率の向上」：主に下記の取組の（1）、（2）、（4）、（5）で対応 ④「非常勤講師の削減」：主に下記の取組の（2）、（3）、（4）で対応 ⑤「統合効果を出すための検討」：主に下記の取組の（3）、（4）で対応</p>
<p>改善の取組</p> <p>（1）芸術工学という学際・複合領域の特色を踏まえつつ、教員の研究を活性化し、組織的な研究指導体制を構築することで、学生の多様な研究テーマや研究計画の希望にも対応できるような組織体制</p>

九州大学芸術工学府 分析項目 I

を目指し、平成 25 年 10 月に研究院の改組を行った。(改組の主な目的は「教員の研究力を強化し、それによって教育力の向上も図る」であり、改組の主な内容は「新しい講座の創設」「部門名称の変更」「部門間の教員移動」である。)

- (2) 教員の採用に当たっては、選考方針で、その職に求められるべき具体的条件を定め、原則公募を行い、教員選考委員会及び教授会において、教育経験、研究業績、作品、実務経験等をもとに、教育・研究指導能力を判断している。
- (3) 教員の昇格の場合においても、採用に準じた審査を実施しているが、教育研究業績の評価に加えて、部局の将来構想への貢献の評価も重視している。
- (4) 特に、全学教育や一般教養的教育の担当教員の退職後は、同じ分野の教員を補充するのではなく、芸術工学の強み分野を補強する人事を行っている。
- (5) デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員の採用や昇格に当たっては、作品による業績の評価などを重要視している。

注：本学独自の制度で、部局の将来構想の実現に向けた組織改編等の取組について、中期目標期間の 5 年目に全学的な点検・評価を行い、その評価結果を反映した形で、10 年以内に組織改編を完了するよう各部局に促す制度であり、このような点検・評価を継続的に実施することにより、組織の自律的な変革を促進し、教育研究の一層の充実・発展を図ることを目的としている。

1-1-(1)-② 多様な教員の確保の状況とその効果

「デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員、社会でのデザインの実務経験を有する教員が約 40%」「女性教員 15.3%」「外国人教員 3.5%」と多様な教員を確保している(資料 5)。特に博士後期課程の女性教員の割合(資料 6)は 12.7%で、九大全体での 11.6%より高く、12 学府中で 4 番目の高さである。また、専任教員の年齢もバランス良く構成している(資料 7)。

○資料 5 多様な教員の確保の状況

- (1) デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員の研究業績を評価する要項を作成して、採用や昇格に当たっては、作品による業績の評価などを重要視している。なお、「デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員、社会でのデザインの実務経験を有する教員」は、少なくとも本学府の約 40%の教員が、これに該当する教員である。
- (2) 社会でのデザインの実務経験を有する教員を積極的に採用している。その実績に関しては、資料 2 で示したとおりである。
- (3) 後の資料 9 で示すように、本学府の入学者には女子学生が多い。女子学生の良き理解者となり、また、良き目標・モデルとなるために、女性教員の役割が重要である。本学府では、本学の「女性教員特別枠」に挑戦する等、積極的に女性教員の採用に努めている。修士課程担当教員における女性教員の割合は 15.3%で、九大全体での 10.9%より高く、12 学府中で 5 番目の高さである。博士後期課程担当教員における女性教員の割合は 12.7%で、九大全体での 11.6%より高く、12 学府中で 4 番目の高さである。これらの数字から、本学府における女性教員の採用状況は比較的良好と考える。
- (4) 本学は「世界的デザイン教育研究の拠点」を目指しており、グローバルに活躍できる「高次のデザイナー」を育成するためには、外国人教員による教育が重要である。外国人教員の採用についても、共同研究等の機会を通して、積極的に採用に努めている。

○資料 6 専任教員に占める女性教員・外国人教員(平成 27 年 5 月 1 日現在)

課程	専任教員数		うち外国人教員数		総計	女性教員割合(%)	外国人教員割合(%)
	男性	女性	男性	女性			
修士課程	72	13	3	0	85	15.3%	3.5%
博士後期課程	69	10	3	0	79	12.7%	3.8%

○資料 7 専任教員の年齢構成(平成 27 年 5 月 1 日現在)

課程	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	総計
修士課程	0	14	31	24	16	85
博士後期課程	0	12	27	24	16	79

1-1-(1)-③ 入学者選抜方法の工夫とその効果

1) アドミッション・ポリシー

専攻・コースの特性に照らした論理的思考力と芸術的感性を基盤とする「高次のデザイナー」養成の教育目的を踏まえて、アドミッション・ポリシーを定めて、広く一般に公開している(資料8)。

○資料8 アドミッション・ポリシー

専攻	コース	アドミッション・ポリシー
芸術工学専攻	デザイン人間科学コース	<p>デザイン人間科学コースでは、人間の特性を科学的に探究し、人間にとって、最適な環境、物、情報の総合体を提案できる人材を育成することを目指しています。</p> <p>生理人類学講座では、人間の形態及び生理特性を調べることによって、安全で快適な製品や生活環境を考察するための体系的な教育研究を行います。</p> <p>知覚心理学講座では、人間の知覚システムが製品や生活環境からの情報をどのように受け取り、どのように意味づけているかを考察するための体系的な教育研究を行います。</p> <p>生体情報数理学講座では、人間の生理・心理計測データを解析・処理する数理工学的な基盤に立って、最適な製品や生活環境を設計するための体系的な教育研究を行います。</p> <p>そのために本コースでは、デザイン人間科学を目指す明確な動機があり探究心が旺盛な学生を求めます。</p>
芸術工学専攻	デザイン人間科学 (国際コース 博士後期課程)	<p>本コースは、グローバル 30 プロジェクトに基づいて、英語能力が十分な留学生に英語の授業を提供し英語で学位指導をすることで、日本語能力にかかわらず学位取得ができるように開設された博士後期課程のコースです。アドミッションポリシーはデザイン人間科学コースと同じです。</p>
芸術工学専攻	コミュニケーションデザイン科学コース	<p>視聴覚情報が時空の制約を超えて大量かつ高速に流通し生活に不可欠な要素となった高度情報通信社会の中で、今、心を通い合わせるコミュニケーションのあり方が強く求められています。本コースはそのような視聴覚環境の創出を目標として、科学技術能力と芸術的感性を備えた人材を育成します。</p> <p>視聴覚情報融合講座では、言語、音楽、環境音、画像などを体系的に学び、視聴覚情報を融合する手段、その具現化のための方策、視聴覚文化のあり方について教育・研究を行います。</p> <p>音響情報伝達講座では、音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達の場を物理的に解析・制御し、人間にとって最適な音響情報伝達を実現するための技術について教育・研究を行います。</p> <p>画像情報伝達講座では、画像情報の処理・解析・認識、コンピュータビジョン、画像生成アルゴリズムなど、画像工学の先端的基礎理論及び社会への応用技術について教育・研究を行います。</p> <p>ホールマネジメントエンジニアリング講座では、劇場・ホール等において、工学的知識を基盤として、文化芸術振興の意義を理解しつつマネジメントを行う手法に関して、実践的な教育・研究を行います。なお、本講座の教育課程は修士課程のみに設置されています。</p> <p>このために本コースでは、音響、画像を、単に情報を伝えるだけの信号としてではなく有効なコミュニケーションのメディアと認識し、その可能性を探ることに興味のある学生を広く募集します。</p>

芸術工学専攻	環境・遺産デザインコース	<p>本コースは、フィールドワークに基づいた設計演習を中心とする実践的なプログラムを提供することで、環境・遺産としての建築・景観など空間のデザインとともに、その環境・遺産が未来へつながるための仕組みのデザインを遂行する専門性を身につけた、従来の建築学・造園学・文化財保存学・考古学などの枠を超えた総合的な「環境・遺産デザイナー」を養成します。</p> <p>そのために、空間的、時間的コンテクストの理解を基本とし、とくに遺産理論講座では環境・遺産の価値を発掘し評価できる能力、環境・遺産マネジメント講座ではその価値を保全し活用できる能力、そして環境デザインテクノロジー講座ではその価値を技術面から向上させ創成できる能力の養成を目指した研究教育を行います。</p> <p>本コースでは、この環境・遺産デザイナーを目指す明確な意志がある学生を求めます。</p>
芸術工学専攻	コンテンツ・クリエイティブデザインコース	<p>コンテンツ・クリエイティブデザインコースでは、論理的な思考能力と美的感性の涵養を通じて、先導的なメディアテクノロジーの応用及び芸術文化の創造に関わる、国際的視野を持った高度なクリエイターや研究者の育成を目指しています。</p> <p>芸術表現学講座では、芸術文化と歴史を深く理解し、それを現代社会に活かす力を備えた人材を育成します。そのために造形数理、美術、音楽、演劇、言語、文化史、哲学といった幅広い分野を体系的に関連づけながら教育研究を行います。</p> <p>デジタルコンテンツデザイン講座では、映像、音楽、メディア芸術の作品制作やその表現理論、技術の研究など、芸術・科学・工学にわたる体系的な教育研究を行います。</p> <p>クリエイティブデザイン講座では、ビジュアルデザイン、インダストリアルデザインに関して幅広く実践的な教育・研究を行い、ものづくりと情報環境を支える創造力豊かな人材を育成します。</p> <p>これらのために本コースでは、創造的意欲にあふれる学生を求めます。</p>
デザインストラテジー専攻		<p>本専攻は、本学大学院芸術工学府が持つ「高次のデザイン」の教育理念のもとに社会が求める新たなデザイン人材像を追求し、ビジネスにおいてデザインを戦略的に推進するデザインストラテジストを育成します。</p> <p>したがって、入学者には具体的に次のような資質が求められます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインストラテジストを目指す明確な動機があること ・デザインに関する専門的基礎知識を身につけていること ・デザインビジネスについての関心が高くチャレンジ精神があること ・幅広い教養と柔軟な発想力、豊かな創造力があること ・今後の社会形成に対する関心と洞察力、現状に対する分析力があること <p>上記の方針に基づき、デザインプロデューサーをはじめとするデザインストラテジストを目指す、芸術工学系、デザイン系大学卒業生・大学院修了生、デザインに関心の高い理工学系、人文社会系大学卒業生・大学院修了生、及びデザイン関連実務に携わる社会人を中心に幅広く門戸を開放します。</p>

2) 入学者数の状況

修士課程、博士後期課程共に入学定員充足率は適正化している（資料9）。

しかし博士後期課程は、平成27年度に充足率が90%未満となったため、平成28年度に執行部を中心に改善策の検討を進める。

○資料9 大学院課程の入学者数（修士課程） 注：（ ）内は女子で内数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
募集人数	120人	120人	120人	120人	120人	120人
合格者数	184人	156人	158人	149人	154人	123人
入学者数	172人 (73人)	145人 (63人)	144人 (53人)	142人 (52人)	145人 (47人)	113人 (30人)
入学定員充足率	143.3%	120.8%	120.0%	118.3%	120.8%	94.2%

入学者内訳

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般入試	132 人	108 人	110 人	112 人	122 人	90 人
社会人入試	6 人	5 人	4 人	2 人	2 人	1 人
外国人留学生入試	34 人	32 人	30 人	28 人	21 人	22 人

(博士後期課程) 注：() 内は女子で内数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
募集人数	30 人	30 人	30 人	30 人	30 人	30 人
合格者数	38 人	25 人	32 人	30 人	32 人	22 人
入学者数	38 人(8 人)	25 人(7 人)	32 人(14 人)	30 人(13 人)	29 人(11 人)	22 人(8 人)
入学定員充足率	126.7%	83.3%	106.7%	100.0%	96.7%	73.3%

入学者内訳

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
一般入試	27 人	18 人	25 人	18 人	15 人	15 人
社会人入試	11 人	4 人	7 人	11 人	10 人	6 人
外国人留学生入試(G30)	-	3 人	0 人	1 人	4 人	1 人

1-1-(2) 内部質保証システムの機能による教育の質の改善・向上

1-1-(2)-① 教員の教育力向上のための体制の整備とその効果

毎年 1 回集中的に FD 研究会を実施しており(資料 10)、PBL(課題解決型学習・Problem Based Learning)やデザイン演習授業におけるアクティブ・ラーニングを推進する教授法の改善(例：学生アンケートなど)に役立てている。

○資料 10 FD 研究会の実施状況

年度	開催数	参加人数	主なテーマ
平成 22 年度	1 回	27 名	体験教育・協同学習
平成 23 年度	1 回	37 名	芸術工学リテラシーと今後の基礎教育のあり方について ～コアセミナーの授業内容の共有を通じて～
平成 24 年度	1 回	31 名	最近の学生との関わり方
平成 25 年度	1 回	30 名	グローバル化と英語による教育力
平成 26 年度	1 回	36 名	ループリックの作成について
平成 27 年度	1 回	37 名	成績不振学生への指導について

1-1-(2)-② 職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

職員の英語力向上という課題の改善を図るための取組は、資料 11 に示すとおり、英語研修あるいは国際業務研修に、延べ 44 名の職員が参加している。平成 26 年度からは部局内で英語研修を行い、目標としている TOEIC 600 点をクリアする職員を実施 1 年目に 3 名、2 年目に 2 名出している。

○資料 11 語学関係研修 受講状況

年度	研修名	実施部署	受講者所属・職名
平成 25 年度	平成 23 年度職員業務英語能力向上研修及び英語ビジネスライティング研修	国際交流推進室	芸術工学府 事務職員 2 名・技術職員 1 名
	平成 25 年度文部科学省国際業務研修生	国際部国際企画課	芸術工学部 事務職員 1 名
	平成 25 年度本学職員英語ビジネスライティング研修	国際交流推進室	芸術工学部 事務補佐員 1 名
平成 26 年度	ニューサウスウェールズ大学における職員英語研修	グローバル人材育成推進プロジェクトオフィス	芸術工学部 事務職員 2 名
	英会話教室講師による英語研修 (TOEIC 対策)	芸術工学部事務部	芸術工学部 事務職員 17 名・技術職員 2 名
平成 27 年度	英会話教室講師による英語研修 (TOEIC 対策)	芸術工学部事務部	芸術工学部 事務職員 15 名・技術職員 3 名

1-1-(2)-③ 教育プログラムの質保証・質向上のための工夫とその効果

「高次のデザイナー」の養成という教育目的を達成するために、「デザイン教育の国際化」という課題の改善を図るための取組として「国際交流型デザイン教育の試行と発信」(平成 26 年度 EEP 採択)を実施して、次のような実績を上げている(資料 12)。

1. グローバル時代に求められるローカルな課題解決型の授業改善
2. 国際共通語としての英語を含むプレゼンテーション教育
3. アジア各国との授業連携による学生の国際プレゼンテーション体験

○資料 12 教育の質向上支援プログラム (EEP) 採択状況

採択年度	部局	取組課題
平成 22 年度	芸術工学部	体験・実践型デザイン教育の手法整理と普及
平成 26 年度	芸術工学府・芸術工学部	国際交流型デザイン教育の試行と発信

注：教育の質向上支援プログラム Enhanced Education Program (EEP)
平成 21 年度から実施している教育の質向上支援プログラム (EEP) は、中期目標・中期計画に掲げる教育に関する目標・計画の達成に資する部局等の主体的な取組を支援することにより、教員及び組織の教育力の向上を図り、本学の教育改革を推進することを目的とするものである。

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

「組織編成上の工夫」では、芸術工学の幅広い分野にわたる最先端の教育を体系的・効果的に実施することができる構成となっている。デザインの実務経験を有する教員が多数在職しており、イノベーション創出を担うような設計家を養成する教育目的を達成するために適切な配置となっている。また、デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員の業績評価の指針を定め、採用や昇格に際して効果を上げている。

次に、「内部質保証システムの機能による教育の質の改善・向上」では、教員の教育研究力向上のために、「国際交流型デザイン教育の試行と発信」を実施し、教育国際化の方法論の開発を目指し実績を上げている。

以上のように、「高次のデザイナー」の養成という教育目的を達成するための工夫や内部

九州大学芸術工学府 分析項目 I

質保証が十分に機能し、例えば、学生の国内外での学会発表、論文発表の実績や国内外のデザインコンペティション等で優秀な賞を受賞するなど、学生たちの大きな成果に結びついていることから、想定する関係者の期待する水準を上回ると判断する。

観点 1-2 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1-2-(1) 体系的な教育課程の編成状況

1-2-(1)-① 教育課程編成方針 (カリキュラム・ポリシー)

専攻、コースの特徴を生かしたカリキュラム・ポリシーを定め (資料 13~17)、複数教員による授業科目や課題解決型学習 (PBL) 科目などの開設や、専攻やコース内共通科目 (資料 15) を用意して幅広い専門知識の習得に工夫している。

○資料 13 カリキュラム・ポリシー

専攻	コース	カリキュラム・ポリシー
芸術工学専攻	デザイン人間科学コース	教育課程の編成と概要
		<p>① 全ての学生に「生理人類学」、「知覚心理学」、「生体情報数理学」の3つの分野から履修すること求め、分野の壁を越えて協力する能力を身に付けさせる。</p> <p>② 「デザイン人間科学」を構成する基本的分野の内容を学問的に一貫したものと学ぶことを求める。</p> <p>③ 研究を行ううえで必要となる知識及び技術を、必修の共通科目によって身に付けさせる。</p> <p>④ どの学生にも、1つの専門分野についての研究内容を修士論文、博士論文としてまとめさせる。</p> <p>◇研究指導体制</p> <p>① 入学時に学生毎に指導教員を定め、必要があれば関連分野から副指導教員を定める。</p> <p>② 修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定する。</p> <p>③ 指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導する。</p> <p>④ 指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとする。1年次終了時点 (博士後期課程は1年次及び2年次終了時点) で研究の進捗状況についての中間報告を義務付ける。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>【修士課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要である。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価される。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p>

芸術工学専攻	コミュニケーションデザイン科学コース	<p>◇研究指導体制</p> <p>①入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。</p> <p>②修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。</p> <p>③指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。</p> <p>④指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとする。1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>【修士課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p>
芸術工学専攻	環境・遺産デザインコース	<p>1. 教育課程等の概要</p> <p>◇研究指導体制</p> <p>① 入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。</p> <p>②修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。</p> <p>③指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。</p> <p>④指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとし、1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で、研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。</p> <p>◇修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>【修士課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p>

芸術工学専攻	コンテンツ・クリエイティブデザインコース	<p>◇ 研究指導体制</p> <p>① 入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。</p> <p>② 修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に、指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。</p> <p>③ 指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。</p> <p>④ 指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとします。1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で、研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。</p> <p>◇ 修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>【修士課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に2年以上在学して、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p>
デザインストラテジー専攻		<p>◇ 研究指導体制</p> <p>① 入学時に学生毎に指導教員を定め、必要であれば関連分野から副指導教員を定めます。</p> <p>② 修士論文の研究テーマは、入学前に確認したことを中心に指導教員及び副指導教員の指導のもとに決定します。</p> <p>③ 指導教員及び副指導教員は、研究テーマが一連の研究手順に沿って進行していくように指導し、論文作成を指導します。</p> <p>④ 指導教員及び副指導教員は、その学生の理解度、進行度等を学期ごとに評価しながら指導するものとします。1年次終了時点（博士後期課程は1年次及び2年次終了時点）で、研究の進捗状況についての中間報告を義務付けます。</p> <p>◇ 修了要件、成績評価基準・評価方法等</p> <p>【修士課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に2年以上在学して、40単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は作品を提出して、その審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p> <p>【博士後期課程】</p> <p>ア 修了要件 課程に3年以上在学して、10単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。</p> <p>イ 成績評価基準・評価方法 授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価基準・評価方法により評価されます。</p>

○資料 14 カリキュラム・ポリシーを掲載した Web ページの URL

<http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/policy/>

○資料 15 教育目的とカリキュラム・ポリシーの関係において特筆すべき事項

芸術工学専攻修士課程においては、以下の工夫を行っている。

- ・ 学生各自の所属講座の開設科目から選択する「講座内科目」により各学生の研究分野の専門性強化を図る。
- ・ 所属コースの所属講座以外の講座の開設科目から選択する「他講座科目」により複合化への対処を図る。
- ・ 「コース内共通科目」において実践的な演習を行い、他コース・専攻、他学府、大学院基幹教育科目の修得単位は「自由科目」として認定することにより、各学生の関心の多様性や専門分野の発展的な学習に対応している。

デザインストラテジー専攻修士課程においては、以下の工夫を行っている。

- ・ デザインビジネス講座の科目とそれ以外の2講座の科目の両方を履修することを課して、ビジネスに関する知識とデザインに関する知識を兼ね備えることを目指している。
- ・ 学修成果と実務を融合したケーススタディ型の演習である「プロジェクト」を専攻内共通科目に設けている。

両専攻の博士後期課程においては、以下の効果的な履修体を構成している。

- ・ 「修士課程との共通開設科目」を設定し、修士課程と共通で開設する講義科目から履修して研究分野の知識を修得する。
- ・ 「博士後期課程独自開設科目」で各自の研究に応じた学修を行う。

○資料 16 教育課程の編成の特徴

本学府の授業科目は、シラバス (<http://syllabus.kyushu-u.ac.jp/660/>) に示すとおり開設している。

- ・ 各コース・専攻の開設科目とともに、共通科目等を体系的に編成
- ・ 当該講座の科目、当該コース・専攻の科目、コース内もしくは専攻内共通科目及び自由科目により編成（修士課程）
- ・ 「講座科目」で各学生の研究分野の専門性強化を、「他講座科目」で複合化への対処を、「コース内共通科目」で実践的な演習を行い、他コース・専攻、他学府、大学院基幹教育科目の修得単位は「自由科目」として認定することにより、各学生の関心の多様性や専門分野の発展的な学習に対応する構成。
- ・ 複合化する問題への対処を目的に、専門分野の関連性を学ばせるため複数教員による授業科目を開設
- ・ 修士課程と共通開設の科目及び博士後期課程独自の科目により編成（博士後期課程）

○資料 17 教育科目の配置の特徴

修士課程・博士後期課程ともに、学部での専門科目を高度化した科目編成

- ・ より幅広い視野を備えた高度な専門教育のため、他講座での単位修得の条件付け
- ・ 修士研究では、論文重視の研究者育成と作品等のプロジェクト重視の高度職業人育成の両面からの学位取得を可能とする編成
- ・ 種々の問題解決方法を学ぶことを目的とする「プロジェクト」及び「PBL（課題解決型学習・Problem Based Learning）」などの実践的科目を開設。
- ・ 人間環境、法学、医学、工学、システム情報学、総合理工学、農学研究院、総合博物館の協力の下、各研究院等の教員が本学府の授業を担当することにより、より専門的な学際化を実施。
- ・ 博士研究は、課程博士の学位申請条件として設定

1-2-(1)-② 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーを定め、芸術工学という共通の枠組みを守りながら、学位プログラムごとに教育目的と、具体的な到達目標を定め、学位プログラムが全体として芸術工学分野の基準を示すものとしている（資料 18、19）。

○資料 18 ディプロマ・ポリシー

芸術工学専攻	デザイン人間科学コース	【修士課程】	<p>(知識・理解及び専門能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の形態、行動、生理特性に関する最先端の知識を有する。 ・人工的な環境下における人間の行動を形態的及び生理的な面から調べる実験を、環境適応能の観点から計画、遂行することができ、そのデータを分析及び解釈することができる。 ・ヒトの知覚システムに関する実験を計画、遂行することができる。また、ヒトの知覚に関する心理学的データを分析し、解釈することができる。 ・一般統計学、計算機科学、機械設計の知見を利用して、生理・心理学的なデータの解析、問題の定式化、最適な解決方法の提案を行うことができる。 <p>(汎用的能力)</p> <p>数理学、自然科学、応用科学の知識を活用し問題解決をはかることができるさまざまな専門分野の人材からなるチームの一員として働くことができる。</p> <p>(態度・志向性)</p> <p>人間の特性に関する研究を科学的な見地から理解でき、人間の特性に従った最適な環境、製品、情報を提案するための研究を、独自に、またさまざまな分野の人材によるチームの中で遂行できる。</p>
		【博士後期課程】	<p>(知識・理解及び専門能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の形態、行動、生理特性に関する最先端の知識を有する。 ・人工的な環境下における人間の行動を形態的及び生理的な面から調べる実験を、環境適応能の観点から計画、遂行することができ、そのデータを分析及び解釈することができる。 ・ヒトの知覚システムに関する実験を計画、遂行することができる。また、ヒトの知覚に関する心理学的データを分析し、解釈することができる。 ・一般統計学、計算機科学、機械設計の知見を利用して、生理・心理学的なデータの解析、問題の定式化、最適な解決方法の提案を行うことができる。 <p>(汎用的能力)</p> <p>数理学、自然科学、応用科学の知識を活用し問題解決をはかることができるさまざまな専門分野の人材からなるチームの一員として働くことができる。</p> <p>(態度・志向性)</p> <p>人間の特性に関する研究を科学的な見地から理解でき、人間の特性に従った最適な環境、製品、情報を提案するための研究を、独自に、またさまざまな分野の人材によるチームの中で遂行できる。</p>
	コミュニケーションデザイン科学コース	【修士課程】	<p>「知識・理解」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 言語、音楽情報、環境音、視覚情報、視聴覚文化などの分野について体系的に理解し、特定の分野に焦点を当てて、その専門的内容を的確に説明できる。 (2) 音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達の場を物理的に解析・制御し、人間にとって最適な音響情報伝達を実現するための専門的技術についての的確に説明できる。 (3) 画像をはじめ視覚情報や視覚メディアに対する様々な処理や知的利用に関して体系的に理解し、特定の課題に焦点を当てた研究の知識を有して、わかりやすく説明できる。 (4) ホール・劇場等に関わる芸術、マネジメント、工学の各分野の内容について体系的に理解し、その専門的内容や関連性を的確に説明できる。 <p>「専門的能力」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 視聴覚情報を融合する手段や方策などを研究活動に活用できる。 (2) 音響情報を効果的に伝達し、活用する手段や方策などを研究活動に活用できる。 (3) 専門分野の十分な理解と統合的把握能力を得ると共に、数理的な解析とコンピュータによる数値計算の能力を有し、画像情報伝達に関する諸問題の研究に活用できる。 (4) 芸術、マネジメント、工学の各分野の内容を融合する手段や有機的な連携方策などを研究活動に活用できる。 <p>「汎用的能力」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) コミュニケーション・スキルと自己表現能力を鍛え、他の領域と積極的に交流できる視点を養う。 (2) より幅広い科学的手法と論理的思考力及び実践能力を身につけると共に、科学・技術と人間・社会とのかかわりの問題を理解し考慮することができる。 <p>「態度・志向性」</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 視聴覚文化、視聴覚コミュニケーションのあり方についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。 (2) 音を用いた各種情報伝達についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。 (3) 画像情報分野における問題を自律的に見出し解決しようとする積極性を持つ。その過程では、社会を視野に入れた多様な視点及び他者との協働を重視する柔軟性を備える。 (4) ホール・劇場における芸術・工学の知識に基づいた新しいマネジメントについての課題解決に積極的に挑戦する態度を持つ。

		<p>「知識・理解」</p> <p>(1) 言語、音楽情報、環境音、視覚情報、視聴覚文化などの分野について体系的に理解し、特定の分野に焦点を当てて、その高度な専門的内容を的確に説明できる。</p> <p>(2) 音情報源の機能や特性を体系的に学び、情報伝達のを物理的に解析・制御し、人間にとって最適な音響情報伝達を実現するための高度な専門的技術についての的確に説明できる。</p> <p>(3) 画像をはじめ視覚情報や視覚メディアに対する様々な処理や知的利用に関して体系的に深く理解し、特定の課題に関する優れた研究成果を有して、わかりやすく説明できる。</p> <p>「専門的能力」</p> <p>(1) 視聴覚情報を融合する手段や方策などを研究活動に高度に活用できる。</p> <p>(2) 音響情報を効果的に伝達し、活用する手段や方策などを研究活動に高度に活用できる。</p> <p>(3) 専門分野の高度な理解と統合的把握能力を得ると共に、数理的な解析とコンピュータによる数値計算の高い能力を有し、画像情報伝達に関する諸問題の高度な研究に活用できる。</p> <p>「汎用能力」</p> <p>(1) 外国語を含むコミュニケーション・スキルと自己表現能力を鍛え、他の領域と国際レベルで積極的に交流できる視点を養う。</p> <p>(2) より幅広い高度な科学的手法と論理的思考力及び実践能力を身につけると共に、科学・技術と人間・社会とのかかわりの問題を深く理解し考慮することができる。</p> <p>「態度・志向性」</p> <p>(1) 視聴覚文化、視聴覚コミュニケーションのあり方についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持ち、社会貢献に活かすことを志向する。</p> <p>(2) 音を用いた各種情報伝達についての課題解決に積極的に挑戦する態度を持ち、社会貢献に活かすことを志向する。</p> <p>(3) 画像情報分野における問題を自律的に見出し解決しようとする高い積極性を持つ。その過程では、社会を視野に入れた多様な視点及び他者との協働を重視する柔軟性を備える。</p>
芸術工学専攻	環境・遺産デザインコース	<p>教育の目的を達成するために、以下のような到達目標を掲げる。</p> <p>(1) 国内外の地域をフィールドとした実践的な教育を体験することによって、多様な環境・遺産の価値評価能力を持ち、環境・遺産デザインの国際ネットワークを支える人材となる能力を身に付ける。</p> <p>(2) 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と将来の遺産となるべき建築・景観・社会システムをデザインする専門性を修得し、環境・遺産マネジメントを支える人材となる能力を身に付ける。</p> <p>(3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術を修得し、空間的な調和と時間的な視野を持って環境デザインを支える人材となる能力を身に付ける。</p> <p>(4) 上記の各分野における調査・分析・考察・計画・設計・提案等を行うための総合的な研究能力とデザイン能力を身に付ける。これにより、本プログラム修了後には、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして活躍できる人材となること、最終的な到達目標である。</p> <p>教育の目的を達成するために、以下のような到達目標を掲げる。</p> <p>(1) 国内外の地域をフィールドとした実践的な教育を体験することによって、多様な環境・遺産の価値評価能力を持ち、環境・遺産デザインの国際ネットワークを支える人材となる高度な能力を身に付ける。</p> <p>(2) 環境・遺産の価値を評価・保護・継承するための専門性と将来の遺産となるべき建築・景観・社会システムをデザインする専門性を修得し、環境・遺産マネジメントを支える人材となる高度な能力を身に付ける。</p> <p>(3) 人間と環境の関係をふまえたサステナブル・デザインを可能とする安全性・健康性・機能性・快適性を実現する技術を修得し、空間的な調和と時間的な視野を持って環境デザインを支える人材となる高度な能力を身に付ける。</p> <p>(4) 上記の各分野における調査・分析・考察・計画・設計・提案等を行うための高度の総合的な研究能力とデザイン能力を身に付ける。これにより、本プログラム修了後には、大学・研究所・博物館等の研究職、建築・造園・都市計画・文化振興・環境政策等の行政職、まちづくり・むらおこし等のプランナー、遺産保護・遺産修復等のマネージャー、建築・造園・景観等のデザイナー、建築・造園等のエンジニア等の幅広い職種において、将来の遺産を創造する環境・遺産デザイナーとして活躍できる人材となる。</p> <p>(5) さらに、本プログラム修了後には、国内外において環境・遺産デザイン分野における指導的役割を果たし、大学や研究所等において新たな人材の育成も担うことができるような、国際的水準の卓越した教育研究能力を持つ環境・遺産デザイナーとなること、最終的な到達目標である。</p>

芸術工学専攻	コンテンツ・クリエイティブデザインコース	【修士課程】	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化と歴史を深く理解し、それを現代社会に活かす能力を持つ。 ・ものづくりと情報環境を支える豊かな創造力とともに、表現理論、技術の研究など、芸術・科学・工学にわたる体系的な教育研究を理解し実践する能力を持つ。 ・当該分野の修了者は以下のような分野において、高次のクリエイター、エンジニア、研究者等としての活躍が期待される。 <p>コンテンツデザイン分野（映像、音楽、ゲーム、グラフィックデザイン等） インダストリアルデザイン分野（情報家電、輸送機器、メカニクスデザイン等） 情報デザイン分野（ネットワークエンジニア、プログラマー等） コンテンツ・クリエイティブデザインに関する教育者・研究者、芸術家等</p>
		【博士後期課程】	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化と歴史を深く理解し、それを現代社会に活かす能力を持つ。 ・ものづくりと情報環境を支える豊かな創造力とともに、表現理論、技術の研究など、芸術・科学・工学にわたる体系的な教育研究を理解し実践する能力を持つ。 ・当該分野の修了者は以下のような分野において、高次のクリエイター、エンジニア、研究者等としての活動が期待される。 <p>コンテンツデザイン分野（映像、音楽、ゲーム、グラフィックデザイン等） インダストリアルデザイン分野（情報家電、輸送機器、メカニクスデザイン等） 情報デザイン分野（ネットワークエンジニア、プログラマー等） コンテンツ・クリエイティブデザインに関する教育者・研究者、芸術家等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該分野における、より高次のクリエイター、教育者、研究者を目指す。
デザインストラテジー専攻		【修士課程】	<p>「基本知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各デザイン領域における専門知識を持つ。 ・各デザイン領域における専門技能を持つ。 ・事業の経済性や社会的影響などの知識を持つ。 ・プロジェクト成果の知的財産化の知識を持つ。 ・計画から設計・開発・流通・販売までのデザインビジネス過程を理解できる。 <p>「専門的能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインを戦略的に推進する多様な関係性と方向性を的確に判断することができる。 ・各デザイン領域を融合した先導的なプロジェクトを創造し、立案することができる。 ・立案したプロジェクトを提案することができる。 ・提案したプロジェクトの事業計画を策定することができる。 ・計画したプロジェクトを責任感と信頼感を持って実行することができる。 ・実行したプロジェクトの成果を評価することができる。 ・デザインビジネス過程を戦略的に推進することができる。 ・時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスピードと高度なスキルを持つ。 <p>「研究能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法（デザインストラテジー研究に関する調査方法、実験方法、分析方法）や研究発表能力、論文執筆能力を身につける。
		【博士後期課程】	<p>「基本知識・技能」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各デザイン領域における専門知識を持つ。 ・各デザイン領域における専門技能を持つ。 ・事業の経済性や社会的影響などの知識を持つ。 ・プロジェクト成果の知的財産化の知識を持つ。 ・計画から設計・開発・流通・販売までのデザインビジネス過程を理解できる。 <p>「専門的能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインを戦略的に推進する多様な関係性と方向性を的確に判断することができる。 ・各デザイン領域を融合した先導的なプロジェクトを創造し、立案することができる。 ・立案したプロジェクトを提案することができる。 ・提案したプロジェクトの事業計画を策定することができる。 ・計画したプロジェクトを責任感と信頼感を持って実行することができる。 ・実行したプロジェクトの成果を評価することができる。 ・デザインビジネス過程を戦略的に推進することができる。 ・時代の変化やニーズに柔軟に対応できるスピードと高度なスキルを持つ。 <p>「教育研究能力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究方法（デザインストラテジー研究に関する調査方法、実験方法、分析方法）や研究発表能力、論文執筆能力を身につける。 ・独自の実践型デザインストラテジスト方法論を構築することができる。 ・デザインストラテジー人材を育成することができる。

○資料 19 デイプロマ・ポリシーを掲載した Web ページの URL

<http://www.kyushu-u.ac.jp/education/mokuhyo-d.pdf>

1-2-(1)-③ 学位論文の審査基準

学位論文の審査基準を明文化し、公開している（資料 20、21）。

特に、学位論文に係る評価基準に関して、作品や芸術表現の審査基準を明確にし、芸術表現・デザインの実践に基づく研究を積極的に評価している（資料 22～23）。

○資料 20 学位論文の審査基準

【修士課程】

1. 修士論文

修士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の習得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていなければならない。

論文審査にあたっては、以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

- (1) 研究の課題設定
- (2) 先行研究の理解と提示
- (3) 研究方法の妥当性
- (4) 論証方法や結論の妥当性と意義
- (5) 論文の形式・体裁

2. 修士作品

修士作品は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の修得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていなければならない。作品審査にあたっては、作品と作品説明書（作品の意義・背景・方法・成果等を記したものを）を以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

- (1) 作品の課題設定
- (2) 先行作品・先行研究の理解と活用
- (3) 作品の制作方法と技術力
- (4) 作品の表現力と意義
- (5) 作品説明書の形式・体裁

【博士後期課程】

博士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、国際的な学術活動の視点から学術的に新たな知見と高い独創性を有していなければならない。

なお、課程博士の学位を請求する場合は、予備審査の申請要件として参考論文に査読付き論文を1編以上含まなくてはならない。

また、芸術表現、デザイン実践及びデザイン計画等を主とする研究分野の博士論文を提出する場合は、参考論文を参考作品に代えることができる。

論文審査にあたっては、以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

- (1) 研究主題(テーマ)の意義
- (2) 先行研究の理解と提示
- (3) 研究方法の妥当性
- (4) 論証方法や結論の妥当性と意義
- (5) 論文の形式・体裁

○資料 21 学位論文の審査基準を掲載した Web ページの URL

http://www.kyushu-u.ac.jp/education/hyouka/15_geiko.pdf

○資料 22 学位論文に係る評価基準及び特に配慮している点

学位論文に係る評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本学府では、学位論文に係る評価基準等を策定し明示している。 ・ また、「学位審査に関する内規」及び「学位論文の取扱いに関する申合せ」に基づき、博士論文においては、査読付き論文の提出に加え、複数の審査員による数段階にわたる審査（評価）を行っている。これにより、各専門分野に応じて了解が得られている学位論文の水準を当該論文が満たしているかどうか、予備審査、学務運営会議、論文調査及び教授会により厳格かつ適切な審査体制を整備している。 ・ 修士論文においても、3名の審査員により多角的に審査を行うとともに、公開発表会も実施することにより、しかるべき水準を満たしているかどうかを客観的かつ適切に判定していることから、総体として修了認定を適切に実施
-------------	---

特に配慮している点	<p>している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育内容の多様性に鑑み、修士論文のみならず修士作品を提出した際の学位審査についても、その評価基準を策定して公開している。作品は、作品説明書（作品の意義・背景・方法・成果等を記したもの）と共に提出する必要があり、これによって多面的な評価を行っている。
-----------	---

○資料 23 学位論文に係る評価基準認定の運用の厳格性・一貫性を確保するための取組の具体例

論文審査については、「本学大学院芸術工学府の学位の審査に関する内規」を定め、予備審査、学府・学部学務運営会議、論文調査及び教授会の議を経て、学位論文の審査及び修了認定を行うこととなっており、適切な審査体制をとっている。

1-2-(2) 社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

社会のニーズに対応した教育課程の編成では、特に産業界で活躍するデザイナー等の実務者等を非常勤講師に採用するなど、現代社会におけるデザイン実践学の提供や、企業等の実務経験を主とするインターンシップの単位制などを工夫している（資料 24）。

○資料 24 学生のニーズ等に応じた教育課程の編成の具体例

授業科目への学術の発展動向（担当教員の研究成果を含む）の反映	外部講師や産業界で活躍する実務者等を非常勤講師として採用している。また、修士論文の指導には担当教員の最先端研究成果が反映されている。
外国語による授業の実施	英語による授業を実施するコース（デザイン人間科学国際コース）を設置している。
他学府の授業科目の履修	他学府の授業科目の履修も可能
他大学院との単位互換	他大学院との単位互換も可能
インターンシップによる単位認定	授業科目として「インターンシップ」を設け、単位認定している。
秋期入学への配慮	博士後期課程において秋期入学を実施している。

1-2-(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

国際通用性ある教育課程の編成・実施上の工夫は、①多様な留学生の受入れ並びに本学府学生の派遣、②国内学生の国際水準の教育の実施という観点から、特に欧州とアジアの海外提携大学との交換留学を促進し、単位互換を推進している（資料 25～28）。

平成 26 年度から English Community Space (ECS)（資料 29）を設置し、留学支援、留学生との交流や英会話レッスンなどを定期的実施している。このような取組の結果、学生が将来海外においても活躍する準備ができています。

○資料 25 部局間交流協定一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

国名	大学名	学生交流協定締結校	学術交流協定締結日
アメリカ	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校	○	1990 年 6 月 7 日
イタリア	ミラノ工科大学	○	2002 年 2 月 28 日
韓国	東西大学校	○	2003 年 2 月 17 日
イギリス	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート建築デザイン学部	—	2003 年 6 月 30 日
ドイツ	カールスルーエ造形大学	○	2003 年 7 月 24 日
イギリス	ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、ヘレン・ハムリン・センター・フォー・デザイン	—	2004 年 3 月 24 日
フランス	パリ・ラ・ヴィレット・建築大学	○	2004 年 6 月 28 日

九州大学芸術工学府 分析項目 I

イギリス	ラフバラー大学デザイン学部	—	2007年11月28日
韓国	国民大学校建築大学	○	2008年3月18日
オランダ	HKUユトレヒト芸術大学ゲーム&インタラクティブコース	○	2008年9月25日
韓国	国民大学校造形大学	○	2009年2月11日
オランダ	NHL応用科学大学コミュニケーション&マルチメディアデザイン学部	○	2012年2月14日
オランダ	アムステルダム応用科学大学デザイン・情報学部	○	2012年4月23日
トルコ	アナドル大学	○	2014年11月1日
台湾	国立台北科技大学設計学院	○	2015年3月19日
台湾	銘傳大学設計学院	○	2015年7月15日
以下、現在手続き中			
バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	○	
韓国	釜慶大学校人文社会科学大学	○	

○資料 26 複数部局間交流協定一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

国名	大学名	学生交流協定締結校	学術交流協定締結日
フランス	ベルフォール・モンベリヤール工科大学	○	2009年9月21日
ベルギー	ゲント大学バイオサイエンス工学部、芸術・哲学部、工学・建築学部	○	2012年2月16日
ドイツ	ダルムシュタット科学技術大学デザイン学部 (複数部局間協定に改定 2013. 7)	○	2013年12月2日
インドネシア	ハサヌディン大学工学部	○	2014年2月18日
ドイツ	ケルン応用科学大学文化学部 (複数部局間協定に改定 2013. 7)	○	2014年5月22日
フィンランド	アールト大学 アート・デザイン・建築学部	○	2014年8月25日
韓国	蔚山科学技術大学校デザイン及び人間工学部	○	2014年9月2日
以下、現在手続き中			
バングラデシュ	バングラデシュ農業大学	—	

○資料 27 学生の派遣・受入状況一覧（平成 28 年 3 月 31 日現在）

芸術工学府 年度別留学人数 - 留学開始ベース										
<派遣>										
	国名	大学名	学生交流協定締結日	2010 (H. 22)	2011 (H. 23)	2012 (H. 24)	2013 (H. 25)	2014 (H. 26)	2015 (H. 27)	計
部局間協定校	アメリカ	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校	1990. 6. 7							
	イタリア	ミラノ工科大学	2002. 2. 28	1				1	1	3
	韓国	東西大学校	2005. 7. 27							
	ドイツ	カールスルーエ造形大学	2004. 7. 7							
	フランス	パリ・ラ・ヴィレト・建築大学	2004. 6. 28			1		1	1	3
	韓国	国民大学校建築大学	2008. 3. 18							
	韓国	国民大学校造形大学	2009. 2. 11							

九州大学芸術工学府 分析項目 I

	オランダ	NHL 応用科学大学 コミュニケーション & マルチメディアデザ イン学部	2012. 2. 14			1				1
	オランダ	アムステルダム応用 科学大学デザイン・ 情報学部	2012. 4. 23			1	2	1		4
	トルコ	アナドル大学	2014. 1. 11							
	台湾	国立台北科技大学設 計学院	2015. 3. 19							
	台湾	銘傳大学設計学院	2015. 7. 15							
	オランダ	HKU ユトレヒト芸術 大学 ゲーム&イン タラクションコース	2008. 9. 25	1	1					2
	バングラ デシュ	バングラデシュ工科 大学	(手続き中)							
	韓国	釜慶大学校人文社会 科学大学	(手続き中)							
複数部局間協定校	フランス	ベルフォール・モン ペリヤール工科大学	2009. 9. 21							
	ベルギー	ゲント大学バ イオサイ エンス工学部、芸術・哲学 部、工学・建築学部	2012. 2. 16							
	ドイツ	ダルムシュタット科 学技術大学デザイン 学部 (複数部局間協定に 改定 2013. 7)	(2007. 10. 10) 2013. 12. 2		1			1	1	3
	ドイツ	ケルン応用科学大学 文化学部 (複数部局間協定に 改定 2013. 7)	(2009. 8. 31) 2014. 5. 22			2	1	1	1	5
	インドネ シア	ハサヌディン大学工 学部	2014. 1. 27							
	フィンラ ンド	アールト大学 アー ト・デザイン・建築 学部	2014. 8. 25					2	2	4
	韓国	蔚山科学技術大学校 デザイン及び人間工 学部	2014. 9. 2					0	0	0
大学間協定校	アメリカ	ワシントン大学	1994. 10. 3			1	1			2
	香港	香港大学	2001. 4. 16				1			1
	スウェー デン	スウェーデン王立工 科大学	2006. 9. 18						1	1
年度計				2	2	6	5	7	7	29
<受入>										
	国名	大学名	学生交流協 定締結日	2010 (H. 22)	2011 (H. 23)	2012 (H. 24)	2013 (H. 25)	2014 (H. 26)	2015 (H. 27)	計

九州大学芸術工学府 分析項目 I

部局間協定校	アメリカ	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ボモナ校	1990. 6. 7							
	イタリア	ミラノ工科大学	2002. 2. 28	2	4		5	1	2	14
	韓国	東西大学校	2005. 7. 27							
	ドイツ	カールスルーエ造形大学	2004. 7. 7		1		1			2
	フランス	パリ・ラ・ヴィレット・建築大学	2004. 6. 28	2	2		1	2	2	9
	韓国	国民大学校建築大学	2008. 3. 18							
	韓国	国民大学校造形大学	2009. 2. 11							
	オランダ	NHL 応用科学大学コミュニケーション&マルチメディアデザイン学部	2012. 2. 14							
	オランダ	アムステルダム応用科学大学デザイン・情報学部	2012. 4. 23							
	トルコ	アナドル大学	2014. 1. 11							
	台湾	国立台北科技大学設計学院	2015. 3. 19							
	台湾	銘傳大学設計学院	2015. 7. 15							
	オランダ	HKU ユトレヒト芸術大学 ゲーム&インタラクティブコース	2008. 9. 25							
	バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	(手続き中)							
	韓国	釜慶大学校人文社会科学大学	(手続き中)							
複数部局間協定校	フランス	ベルフォール・モンベリヤール工科大学	2009. 9. 21	1	1		2	2		6
	ベルギー	ゲント大学バイオインス工学部、芸術・哲学部、工学・建築学部	2012. 2. 16							
	ドイツ	ダルムシュタット科学技術大学デザイン学部 (複数部局間協定に改定 2013. 7)	(2007. 10. 10) 2013. 12. 2							
	ドイツ	ケルン応用科学大学文化学部 (複数部局間協定に改定 2013. 7)	(2009. 8. 31) 2014. 5. 22			1	1			2
	インドネシア	ハサヌディン大学工学部	2014. 1. 27							
	フィンランド	アールト大学 アート・デザイン・建築学部	2014. 8. 25					1		1
	韓国	蔚山科学技術大学校デザイン及び人間工学部	2014. 9. 2							

九州大学芸術工学府 分析項目 I

大学間協定校	フランス	ボルドー景観建築学院	2006. 2. 6	2	2	2	2	3	1	12
	香港	香港大学	2001. 4. 16						1	1
年度計				7	10	3	12	9	6	47

○資料 28 留学により修得した単位の互換状況一覧

認定年度	コース・専攻名	留学先大学名	互換単位数
H22	芸術工学専攻 環境・遺産デザインコース	パリ・ラ・ヴィレット建築大学（フランス）	7
	デザインストラテジー 専攻	ユトレヒト芸術大学（オランダ）	10
		パリ・ラ・ヴィレット建築大学（フランス）	6
H24	芸術工学専攻 コンテンツ・クリエイティブデザインコース	ケルン応用科学大学（ドイツ）	10
		ダルムシュタット科学技術大学デザイン学部（ドイツ）	8
H25	デザインストラテジー 専攻	アムステルダム応用科学大学（オランダ）	10
		ケルン応用科学大学（ドイツ）	10
H26	デザインストラテジー 専攻	アムステルダム応用科学大学（オランダ）	9
		ケルン応用科学大学（ドイツ）	9
H27	デザインストラテジー 専攻	アムステルダム応用科学大学（オランダ）	10
	芸術工学専攻 環境・遺産デザインコース	ケルン応用科学大学（ドイツ）	6

※平成 23 年度は実績なし

○資料 29 English Community Space（略称：ECS）の概要

平成 26 年 10 月に設置した「English Community Space（略称：ECS）」の概要及び活動実績
（設置場所：多次元デザイン実験棟 1 階ロビー内）

【概要】

ECS は、①留学支援、②留学生との交流スペース、③TOEIC 等試験教材設置、④英会話セッションの 4 本の柱を掲げ、留学に必要な書類や応募スケジュールの紹介、奨学金・助成金情報の提供、日本人学生と留学生が互いに交流できるイベントの実施、TOEIC 対策本や『ENGLISH JOURNAL』をはじめとする英字雑誌などの設置、大学院留学生と気軽に英会話ができるコーナーを設けるなどのメニューを提供して学生の支援を行うことを目的としてスタートした。

平成 27 年度からは、グローバル学生交流センター職員が配置され、また同年 9 月にはスーパーグローバル大学創生支援事業の学内公募に採択されたことにより、平成 27 年度後期からはイベント内容の更なる充実を図り、参加人数も増加し芸術工学部局におけるキャンパス内外での国際交流は着実に進展した。

なお、名称については、学生に親しみやすい名前を募集し、いろいろな具材が混じった日本の“鍋”料理のように、多文化交流が進むようにというアイデアから、芸術工学部局では、通称「CULTURE NABE（カルチャーナベ）」として活動している。

【平成 26 年度後期 (H26.10～H27.3) の実績】

イベント名	延べ参加者数
オープニングイベント (留学体験談発表、参加型グループワーク等) (1回)	53
サポーター交流会 (4回)	33
英会話セッション (6回)	36
ディベート (2回)	17
自己紹介イベント (1回)	19
ポットラックパーティー (1回)	24
クリスマスパーティー (1回)	11
意見交換 (1回)	7
合計 17回	200

【平成 27 年度前期 (H27.4～H27.9) の実績】

イベント名	延べ参加者数
英会話レッスン12回)	29
Book Club (5回)	9
Movie Night (4回)	29
Games and Lounge (7回)	28
CULTURE NABE イベント (4回)	85
フィールドトリップ (1回)	11
合計 33回	191

【平成 27 年度後期 (H27.10～H28.3) の実績】

イベント名	延べ参加者数
英会話レッスン (12回)	65
英語ラボ (9回)	38
ランチアワー (14回)	39
Game Night (4回)	11
Cooking Night (3回)	47
Movie Night (4回)	28
Cross-Culturalセミナー (2回)	15
国際交流パーティー (5回)	211
フィールドトリップ (3回)	68
リノベーションワークショップ (1回)	20
合計 57回	542

1-2-(4) 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

1-2-(4)-① 指導体制

指導教員を入学 (進学) 初年度に決定し、個々の学生ごとに専門性と学際性・総合性の必要に応じて副指導教員とともに指導する体制としている (資料 30)。

○資料 30 学生の指導体制の概要

主指導教員—(副指導教員)—学生 通常学生の指導教員は最大 2 名である。
履修指導：3つのポリシーに沿って、必要な事項を修得し、さらに設定した研究課題を効果的に推進するための履修指導を行う。必要に応じてインターンシップの受入先の紹介などを行うこともある。
研究指導：研究課題の設定、推進方法の教授、学会発表など対外的な成果公表などを総合的に指導する。

1-2-(4)-② 授業形態

授業形態の顕著な特色は、理論的な内容を教授する講義科目 (116 科目) と、実践的な

九州大学芸術工学府 分析項目 I

プロジェクトなどの演習科目（98 科目）がほぼ同数開講するバランスに配慮した構成である（資料 31）。

また、デザイン系のプレゼンテーションを重視した取組や工学的な内容の論文等研究の内容を他者に十分な時間をかけて詳細に紹介するなど教育効果を高めるための工夫を行っている（資料 32）。

○資料 31 学府教育科目における教育課程の中での授業形態別開講数

講義	少人数セミナー	演習	実験	実習	その他
116	0	98	0	0	0
学府教育における授業形態の組み合わせの顕著な特色					
<p>主たる特徴は以下のようにまとめられる。</p> <p>授業形態は、教育目的を達成するため、講義科目と同等に演習科目を重視している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士課程芸術工学専攻では、特に論文講読と議論を中心とした演習科目として各コースで特別演習を設定している。 ・デザインストラテジー専攻においては、共通の科目として、より実践的な性質を持つプロジェクト科目を設定している。 ・芸術工学専攻博士後期課程では、博士論文執筆の前段階の専門教育として各コースの「特別演習」を設置している。 ・社会に対する認識を高め、学生自身の研究と社会とのつながりを意識させるために「特別研修」を設置している。 ・学生個々の研究内容に応じて、研究機関や他大学等の関係機関において、1～2ヶ月程度の研修を行う科目として、また研究の幅を広げさせる目的で、複数の教員により多面的な指導を行う「プロジェクト研究」を設定している。これらの科目によって、博士論文完成に向けた教育効果を高めている。 <p>デザインストラテジー専攻においても、同様の目的で「リサーチ研修」、「リサーチプロジェクト」を設定している。これらの主要科目はすべて教授及び准教授が担当しており、講師・助教・非常勤講師は主要科目以外の科目を担当している。</p>					

○資料 32 教育効果を高めるための工夫の具体例

少人数授業	修士論文研究及び博士論文研究の指導など、少人数形式の授業を研究室におけるゼミとして行っている。
対話・討論型授業	プレゼンテーション特別演習を行っている。
事例研究型授業	デザインビジネス科目群を設置し、デザイン実務家を活用した授業を行っている。
フィールド型授業	インターンシップにおいて、フィールド型授業として企業での実習を行っている。
講義や実験等の併用型授業	理論と実践を兼ね備えた「講義・演習」を行っている。
その他特色ある取組	「プロジェクト」を行う科目では企業等と連携した取組を行っており、社会における学生の実践的能力を高めている。また幅広い形式のインターンシップにも取り組んでいる。

1-2-(4)-③ 研究指導

複数指導体制をとっており、学位論文に係る指導については、論文系の修士研究では、学会発表や論文掲載などを積極的に推奨し、作品制作系の修士研究ではコンサートや展示会などでの公表などを推奨している（資料 33～35）。

○資料 33 指導体制の具体例

本学府においては、「本学大学院芸術工学府の学位の審査に関する内規」、「博士の学位論文の取扱いに関する申合せ」「大学院の研究指導教員に関する申合せ」に定めているように、研究指導や学位論文に係わる指導体制を整備し、また、博士後期課程学生には、研究経過報告書の提出を求めており、適切な計画に基づいた指導を行っている。

○資料 34 研究指導方法の具体例

本学府の学生は主研究指導教員の指導に基づき、入学後、研究題目を学府長に提出することを義務づけているとともに、博士後期課程においては、毎年 1 回以上の研究経過発表を課し、その実施状況を「研究経過報告書」により指導教員に提出し、次年度の研究計画について指導を受けている。

○資料 35 学位論文に係る指導上の工夫

複数教員による指導体制	専攻によっては、主指導教員 1 名と副指導教員 1 名という複数教員による指導体制を採用している。
研究テーマ決定に対する指導	本学府の学生は入学後、主研究指導教員と綿密な相談のもと研究題目を学府長に提出している。
年間研究指導計画の作成・活用	修士課程においては、修士論文または修士作品の制作方針、進捗把握、作成方法及び発表方法などの指導が行われている。博士後期課程においては、博士論文の進捗把握及び必要に応じて学会等での発表指導が行われている。
中間発表会の開催	専攻によっては 1 回ないし 2 回の中間発表会を行っており、進捗状況を複数の教員が把握している。
国内外の学会への参加促進	学位論文指導の一環として国内外の学会への参加を積極的に促進している。また作品制作系の課題においては、コンサートや発表会など、積極的に公開の場を設けて、学内外からの意見を聴取している。
TA・RA としての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練等	本学府では、主に学部授業の教務補助として TA を積極的に任用して活用している。また、博士後期課程の学生は主に RA に任用して研究補助として活用することにより、将来の研究者を目指す学生への job-side トレーニングの機会としている。

1-2-(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

指導教員による個別指導や研究指導、専任教員全員が実施するオフィスアワー、電子メールによる学習相談の実施などにより学生の自主的な学習・研究を支援している（資料 36）。学習支援に関する学生のニーズを把握し、きめ細かい取組を行っている（資料 37）。

学習支援に関する利用度調査・満足度調査においては、シラバスやガイダンスの利用割合が約 70%、約半数が満足という評価が示されている（資料 38、39）。

○資料 36 学習相談の実施状況

オフィスアワー	電子メール	担任制等	その他
実施	実施	指導教員	ハラスメント相談員の配置

○資料 37 全学教育・学部・学府における学習支援に関するニーズ把握状況

授業アンケート	その他のニーズを汲み上げる対策
実施	○電子メールによる常時相談可能な体制 ○オフィスアワー

○資料 38 学習支援に関する利用度調査

調査期間：平成 27 年 10 月 26 日～平成 27 年 11 月 24 日

(表中％表示は、少数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計値が 100％にならない場合がある。)

	よく利用している	少し利用している	どちらでもない	あまり利用していない	全く利用していない	該当なし
シラバス	18 (27.3%)	31 (47.0%)	4 (6.1%)	10 (15.2%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)
ガイダンス(授業科目、専門、専攻の選択の際)	14 (21.2%)	31 (47.0%)	9 (13.6%)	8 (12.1%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)

○資料 39 学習支援に関する満足度調査

調査期間：平成 27 年 10 月 26 日～平成 27 年 11 月 24 日

(表中％表示は、少数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計値が 100％にならない場合がある。)

	満足である	どちらかと言えば満足	どちらでもない	どちらかと言えば不満	不満である	該当なし
シラバス	12 (18.2%)	21 (31.8%)	19 (28.8%)	11 (16.7%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)
ガイダンス(授業科目、専門、専攻の選択の際)	11 (16.7%)	23 (34.9%)	26 (39.4%)	5 (7.6%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

教育課程編成に関しては、専門性の強化とともに、他分野との複合化、実践的な内容をバランスよく配置する工夫を行い、複数教員による授業科目の開設、課題解決型学習(PBL)科目などの実践的な科目の開設、他学府との連携など、教育課程編成方針において効果的な取り組みが多い。

また、学位授与方針に関しても、学位プログラムごとに人材育成目標、教育目的と、それに連関した具体的な到達目標を定めており、さらに、学位論文の審査基準においては厳格な手順を内規として整備している。特に、芸術・デザイン作品等の評価に関しては、修士作品の審査及び博士論文審査における作品や芸術表現の審査に関しても、学位授与に関する取扱いについて明確な審査基準を示し、芸術表現・デザインの実践に基づく研究を積極的に評価しているという点が大きな特色である。

社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施に関して、ニーズに応じた内容を整備している。特に、英語による授業を行う国際コースの設置などと合わせて、海外提携大学との連携を推進している。

以上の教育課程編成上の工夫、教育方法や学習支援の全般的に積極的かつ効果的な工夫が機能し、大きな成果を上げており、想定する関係者の期待する水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点2-1 学業の成果

(観点に係る状況)

2-1-1 在学中や卒業・修了時の状況

2-1-1-① 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

1) 単位修得状況

資料40に示すとおり、平成24年度入学者以降、平均単位修得率が増加し、26年度入学者では90%を超えている。

○資料40 平均単位修得率（平成27年5月1日現在）

平成22年度入学	平成23年度入学	平成24年度入学	平成25年度入学	平成26年度入学
87.5	87.1	89.8	89.8	94.4

備考：平成26年度までの学生の成績情報（学務情報システム）から次の定義で、各学生の単位修得率を算出。
 単位修得率 = (修得した単位数) / (履修登録した授業の総単位数) × 100 (値は%)
 さらに、学部及び大学院ごとに全学生の単位修得率の平均をとり、その値を平均単位修得率とした。
 平均単位修得率 = (全学生の単位修得率の総和) / (学生数)
 出典：学務情報システム

2) 成績評価の状況

資料41に示すとおり、上位に偏っているが、これは学生の到達度が十分に高いことを示すものであり、成績評価、単位認定は適切に実施している。

○資料41 成績評価の分布表（平成26年度）

A	B	C	D	その他
74.7%	7.7%	2.3%	8.9%	5.5%

3) 標準修業年限内の修了率及び学位授与状況

修士課程では標準修業年限内の修了率は80～86%となっており適切である。他方、博士後期課程では修了率の低さが課題となっている（資料42）。

博士後期課程の修了率の課題（資料43）への取組として、平成21年度から年1回以上の研究経過の発表と経過報告書の提出を義務づけ、また社会人学生の入学の比重が高いことから、平成23年度に長期履修制度を導入している。その結果、平成21年度入学者では15%を切っていた修了率が、40%近くまで回復している。

○資料42 標準修業年限内の修了率（平成27年5月1日現在） (%)

	20年度入学 (21年度修了)	21年度入学 (22年度修了)	22年度入学 (23年度修了)	23年度入学 (24年度修了)	24年度入学 (25年度修了)	25年度入学 (26年度修了)
修士課程 (標準修業 年限2年)	85.8	80.8	85.5	82.6	82.6	83.0
博士後期課程 (標準修業 年限3年)	27.3	20.5	14.7	31.6	36.0	39.2

備考：平成26年度までに標準修業年限内に卒業・修了した学生の学籍情報（学務情報システム）から以下の定義で算出。集計は入学した年度に遡って行い、入学者数を分母とした。
 標準修業年限内卒業修了率 = (標準修業年修了者数) / (入学者数) × 100 (値は%)
 ただし、標準修業年限は、学士課程は4年（医歯薬は6年）、修士課程・博士前期は2年、博士後期課程は3年、博士課程は4年、博士一貫は5年、専門職学位課程は2年または3年である。
 値はパーセント、小数点以下1桁。
 出典：学務情報システム

「標準修業年限×1.5」年内修了率（平成 27 年 5 月 1 日現在）（%）

大学院課程	21 年度迄の 修了	22 年度迄の 修了	23 年度迄の 修了	24 年度迄の 修了	25 年度迄の 修了	26 年度迄の 修了
修士課程 （標準修業年 限 2 年）	19 年度入学	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学	23 年度入学	24 年度入学
	92.5	92.6	92.7	92.4	88.2	90.2
博士後期課程 （標準修業年 限 3 年）	17 年度入学	18 年度入学	19 年度入学	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学
	35.3	37.5	33.3	28.2	23.5	41.1

備考：平成 26 年度までに標準修業年限×1.5 内に卒業・修了した学生の学籍情報（学務情報システム）から以下の定義で算出。集計は入学した年度に遡って行い、入学者数を分母とした。
標準修業年限×1.5 内卒業修了率＝（標準修業年×1.5 修了者数）／（入学者数）×100（値は%）
ただし、標準修業年限×1.5 は、学士課程は 6 年（医歯薬は 9 年）、修士課程・博士前期は 3 年、博士後期課程は 4.5 年（月に換算して算出）、博士課程は 6 年、博士一貫は 7.5 年（月に換算して算出）、専門職学位課程は 3 年または 4.5 年（月に換算して算出）である。値はパーセント、小数点以下 1 桁。
出典：学務情報システム

○資料 43 改善の取組と成果の状況

課題	博士後期課程の修業年度内の修了率が低い。
改善の取組	<p>【博士後期課程研究経過報告】</p> <p>1 目的 博士後期課程においては、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務の従事に必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことが求められている。そのために研究経過報告の実施を通じて、学生が研究の到達状況を把握・分析し、専攻分野における学力を養い、研究遂行能力を向上させること、及び指導教員が学生の研究状況を把握して的確な指導を行うことを目的とする。</p> <p>2 研究経過発表 学生は毎年 1 回以上、研究経過発表を実施する。研究経過発表とは、関連学会等における口頭発表、学術雑誌への論文投稿、コンペティション等への出品、企画書の作成などの制作・研究成果を発表することを示す。学外における発表がない学生は、学内において複数の教員・学生、または外部の研究者が参加する公開発表会を実施し、研究状況を発表する。</p> <p>3 研究経過報告書の提出 学生は上記の研究経過発表の状況を別紙「研究経過報告書」に記入して、発表方法に応じて次の資料（梗概集、投稿論文の写し、報告書等）を添えて、指導教員に提出する。</p>
成果	修業年限内の修了率が向上した。

4) 退学率

修士課程の退学率（資料 44）は 5%前後の水準であり良い状況である。博士後期課程は、22 年、23 年度入学者の退学者率の割合が 20%台と低くなっている。

○資料 44 退学者率（平成 27 年 5 月 1 日現在）（%）

課程ごとの 退学者率	21 年度迄の 卒業	22 年度迄の 卒業	23 年度迄の 卒業	24 年度迄の 卒業	25 年度迄の 卒業	26 年度迄の 卒業
修士課程 （修業年限 2 年）	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学	23 年度入学	24 年度入学	25 年度入学
	4.8	3.3	3.5	6.9	4.2	4.2
博士後期課程 （修業年限 3 年）	19 年度入学	20 年度入学	21 年度入学	22 年度入学	23 年度入学	24 年度入学
	54.5	61.5	50.0	23.7	28.0	36.4

5) 学位授与状況

修士は入学定員数を上回っているが、博士は過去3年間で入学定員の約6割程度の学位授与状況にある(資料45)ため、資料43のような改善に取り組み、最近での授与状況は向上している。

○資料45 学位授与状況(平成27年4月1日現在)

	学位の名称	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
大学院 (修士)	修士(デザイン・インストラクター)	43	34	44	34	35	30
	修士(芸術工学)	96	100	122	103	98	101
大学院 (博士後期)	博士(芸術工学)	20	15	9	19	17	14
	博士(工学)	2	1	2	5	4	1

出典：本学概要 2009年度版～2014年度版、学務情報システム

2-1-(1)-② 学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況

1) 在学生の論文・作品発表、受賞状況

論文・作品発表では、多様な発表分野が特色であり、約半数は国際会議での発表である(資料46～48)。毎年多数の受賞があり、特に、技術的や社会的な創意工夫が求められる、芸術的感性と論理的な思考力を合わせ持つ国内外の多数のデザインコンペティションで高い評価を得ている(資料49)。

○資料46 在学生の論文発表状況

(本)

発表年度	在学生の論文発表総数	在学生が筆頭著者の論文数	在学生が筆頭著者の国際学会(英語)での発表数
平成24年度	112	98	44
平成25年度	100	80	38
平成26年度	100	77	48

○資料47 在学生の代表的な論文・作品(著者名が複数のものは、下線部が本学学生)

【芸術工学専攻 デザイン人間科学コース】

論文の内容・水準		
代表的な論文 または作品 1	著者(制作者)	<u>Ping Yeap Loh</u> and Satoshi Muraki
	タイトル	Effect of Wrist Angle on Median Nerve Appearance at the Proximal Carpal Tunnel
	論文(作品)の詳細	PLOS ONE, vol.10, no.2 (Feb., 2015) DOI: 10.1371/journal.pone.0117930
代表的な論文 または作品 2	著者(制作者)	<u>Tsuyoshi Kuroda</u> , Yoshitaka Nakajima, and <u>Shuntarou Eguchi</u>
	タイトル	Illusory continuity without sufficient sound energy to fill a temporal gap: Examples of crossing glide tones
	論文(作品)の詳細	Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance, vol.38, no.5, pp.1254-1267 (Oct. 2012). DOI: 10.1037/a0026629
代表的な論文 または作品 3	著者(制作者)	<u>Yan Pei</u> and Hideyuki Takagi
	タイトル	Accelerating IEC and EC Searches with Elite Obtained by Dimensionality Reduction in Regression Spaces
	論文(作品)の詳細	Journal of Evolutionary Intelligence, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, vol.6, no.1, pp. 27-40 (June, 2013). DOI:10.1007/s12065-013-0088-9

【芸術工学専攻 コミュニケーションデザイン科学コース】

論文の内容・水準		
代表的な論文 または作品 1	著者(制作者)	木田佳孝(博士学生)、鮫島俊哉
	タイトル	球波動関数とキルヒホッパーホイヘンスの公式を用いた多重散乱音場の準理論解析手法
	論文(作品)の詳細	Excellent Paper in 6th ISTD, 6th Int Symp Temporal Design (6th ISTD).
代表的な論文 または作品 2	著者(制作者)	濱村真理子(博士学生)、岩宮眞一郎
	タイトル	音楽再生音の最適聴取レベルにおける男女差
	論文(作品)の詳細	日本音響学論文誌、Vol.70、No.10、pp.525-533
代表的な論文 または作品 3	著者(制作者)	森永淳史(修士学生)、原健二、井上光平、浦浜喜一
	タイトル	一般化ガウス分布モデリングを用いた異種画像間識別
	論文(作品)の詳細	電子情報通信学会論文誌D、Vol. J98-D、No.9
代表的な論文 または作品 4	著者(制作者)	Shingo Gibo(博士学生)、Hiroshi Ito
	タイトル	Discrete and ultradiscrete models for biological rhythms comprising a simple negative feedback loop
	論文(作品)の詳細	Journal of Theoretical Biology, vol. 378, pp. 89-95, 2015.

【芸術工学専攻 環境・遺産デザインコース】

論文の内容・水準		
代表的な論文 または作品 1	著者(制作者)	高橋裕美
	タイトル	特別緑地保全地区と市民緑地における緑地保全活動と施策の運用について
	論文(作品)の詳細	本研究は、地域制緑地における緑地保全活動と制度運用の関係性について、全国の90の自治体へのアンケート調査により、特別緑地保全地区と市民緑地の施策の運用と市民活動の課題について調査を実施した。成果は、下記の査読論文として日本造園学会に受理され、全国大会で口頭発表を実施した。ランドスケープ研究 77(5)、537-542, 2014
代表的な論文 または作品 2	著者(制作者)	小林秀輝
	タイトル	文化的景観としての対馬の石屋根倉庫の研究
	論文(作品)の詳細	本研究は、長崎県対馬に固有に見られる石屋根倉庫を対象とした文化的景観の価値を検証したものである。成果は独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が主催する「文化的景観研究集会(第7回)」においてベストポスター賞(若手研究者部門)を受賞した。2015年11月
代表的な論文 または作品 3	著者(制作者)	國盛麻衣佳
	タイトル	絵画作品「be in underground」
	論文(作品)の詳細	九州青年美術公募展・財団法人大牟田文化会館主催第36回九州青年美術公募展において準グランプリに値する河北倫明賞を受賞した。2012年11月

【芸術工学専攻 コンテンツクリエイティブ・デザインコース】

論文の内容・水準		
代表的な論文 または作品 1	著者(制作者)	橋口哲志、高森文子、上岡玲子、竹田仰
	タイトル	風圧型顔面触覚ディスプレイのVRシアターへの応用
	論文(作品)の詳細	ヒューマンインタフェース学会論文誌、Vol.14、No.4、Pp.303-310、2012年10月
代表的な論文 または作品 2	著者(制作者)	吉野潤、鶴野玲治
	タイトル	Interactive Fluid Control by Shape Matching
	論文(作品)の詳細	芸術科学会論文誌、Vol.13、No.3、Pp.169-176、2014年9月
代表的な論文 または作品 3	著者(制作者)	工藤達郎、川端慧、土下竜人
	タイトル	Dynamic Projection[OCTA]
	論文(作品)の詳細	2013年アジアデジタルアート大賞/福岡県知事賞/総務大臣賞 2013年2月

【デザインストラテジー専攻】

論文の内容・水準		
代表的な論文	著者(制作者)	Marco Van Hout・Laura Mul・Loes Bogers・Shinichiro Ito

または作品 1	タイトル	POSTURAROMA - The Embodiment of Safety
	論文(作品) の詳細	Salamanca, J., Desmet, P., Burbano, A., Ludden, G., Maya, J. (Eds.). Proceedings of the Colors of Care: The 9th International Conference on Design & Emotion. Bogotá, October 6-10, 2014. Ediciones Uniandes, Bogotá, 2014. ISBN: 978-958-774-070-7
代表的な論文 または作品 2	著者(制作者)	梶原宏之
	タイトル	阿蘇カルデラと文化
	論文(作品) の詳細	熊本県阿蘇地域における草原・霧・風の文化のデザインを、自然環境との関わりから考察 山中進・鈴木康夫編『熊本の地域研究』成文堂, pp.23-40, 2015年10月

○資料 48 在学生の優れた学会発表(発表者が複数のものは、下線部が本学学生)

【芸術工学専攻 デザイン人間科学コース】

	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
代表的な発表 1	2014年5月	The 1st Asian Conference on Ergonomics and Design 2014 (ACED2014)	Jeju, Korea	国際
	発表タイトル	<u>Jinghong Xiong</u> , Satoshi Muraki, and Kiyotaka Fukumoto, "The Effects of touch button size to the operability of touchscreen," The 1st Asian Conference on Ergonomics and Design 2014, Jeju, Korea (May 22, 2014). (Best Paper Award)		
代表的な発表 2	2015年8月	The 31st Annual Meeting of the International Society for Psychophysics	Quebec, Canada	国際
	発表タイトル	<u>Takuya Kishida</u> , Yoshitaka Nakajima, Kazuo Ueda, and Gerard B. Remijn, "A critical number of power-fluctuation factors needed for Japanese noise-vocoded speech perception," The 31st Annual Meeting of the International Society for Psychophysics, Quebec, Canada (Aug. 21, 2015).		
代表的な発表 3	2012年8月	6th Int. Conf. on Genetic and Evolutionary Computing (ICGEC2012)	Kitakyushu, Japan	国際
	発表タイトル	<u>Yan Pei</u> and Hideyuki Takagi, "Comparative study on fitness landscape approximation with Fourier transform," 6th Int. Conf. on Genetic and Evolutionary Computing (ICGEC2012), Kitakyushu, Japan, pp.400-403 (Aug. 27, 2012). (Best Paper Award)		

【芸術工学専攻 コミュニケーションデザイン科学コース】

代表的な発表 1	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2013年3月	日本音響学会	東京都	国内
	発表タイトル	小規模残響箱を用いた残響室法吸音率の測定 (学生優秀発表賞)		
代表的な発表 2	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2014年9月	日本音響学会	北海道	国内
	発表タイトル	周波数変化音及び無限音階を用いた低騒音車に搭載する接近報知音の検討(粟屋潔学術奨励賞)		
代表的な発表 3	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2015年3月	日本音響学会九州支部	長崎市	国内
	発表タイトル	"Survey on vehicle horn use in South Korea," Proc. of KYJCA2015, pp.103-106, 2015 (九州支部学生表彰)		
代表的な発表 4	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2015年9月	FIT 情報科学技術フォーラム	松山市	国内
	発表タイトル	線集中度を用いた画像局所特徴の記述法 (第14回情報科学技術フォーラム(FIT2015)奨励賞)		

【芸術工学専攻 環境・遺産デザインコース】

代表的な発表 1	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2014年5月	日本造園学会	福岡	国内
	発表タイトル	特別緑地保全地区と市民緑地における緑地保全活動と施策の運用について		
代表的な発表 2	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2011年9月	International Conference on Environmental Aspects of Bangladesh	北九州	国際
	発表タイトル	Composition of Homestead Gardens in a Local Village on the Western Coast of Teknaf Peninsula, Bangladesh: A Case Study, International Conference on Environmental Aspects of Bangladesh		
代表的な発表 3	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2011年2月	社団法人日本技術士会	福岡	国内
	発表タイトル	中米グアテマラのエビ養殖における水産資源と環境保全に関する研究		

【芸術工学専攻 コンテンツクリエイティブ・デザインコース】

代表的な発表 1	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2014年11月	12th international conference of Asia Digital Art and Design	東京都(デジタルハリウッド大学)	国際
	発表タイトル	Study on Multidirectional Projection System Using Reflexive Material (東島智美、金大雄、石井達郎)		
代表的な発表 2	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2012年10月	日本デザイン学会第五支部平成24年度研究発表会	福岡市(九州大学)	国内
	発表タイトル	曖昧な映像の解釈に基づいたキャラクターデザイン (イヤード・アル・サブーニー、伊原久裕)		
代表的な発表 3	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2012年12月	情報処理学会、Vol. 2012, MUS-97 No. 14, Pp. 1-6	東京都(東京電機大学)	国内
	発表タイトル	歌唱時音声の協和性理論を用いた分析及び分析手法の研究(2012年、内田遼、矢向正人)		

【デザインストラテジー専攻】

代表的な発表 1	開催年月	学会名	開催地	国内国際の別
	2014年10月	The 9th International Conference on Design & Emotion	Bogotá, Colombia	国際
	発表タイトル	POSTURAROMA - The Embodiment of Safety		

○資料 49 国内・国際学会での受賞及び各種コンペティション等の受賞状況
(修士課程)

年度	専攻 (コース)	受賞名	組織	国内	国際
平成 22 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	研究発表奨励賞	日本人間工学会	国内	
		人類働態学会西日本地方会第36回大会研究奨励賞2名受賞	人類働態学会西日本地方会	国内	
		日本音響学会九州支部学生表彰	日本音響学会九州支部	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	九州二紀奨励賞	九州二紀会	国内	
		2010九州大学チャレンジ&クリエイションプロジェクト採択(注1)	九州大学	国内	
		Baca-Ja(Broad Band Art and Contents Award Japan)優秀賞	関西テレビ	国内	
		高齢者の為の自動車 最優秀賞	全国都道府県協会	国内	
		高齢者の為の自動車佳作2名	全国都道府県協会	国内	
		アジアデジタルアート大賞2010優秀賞	アジアデジタルアート大賞実行委員会		国際
		アジアデジタルアート大賞2010インタラクティブ部門優秀賞	アジアデジタルアート大賞実行委員会		国際
	アジアデジタルアート大賞2010静止画部門入賞	アジアデジタルアート大賞実行委員会		国際	
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	平成22年度社団法人日本造園学会主催松重開門公園周辺エリア学生公開アイデアコンペ優秀賞(団体)	日本造園学会	国内	
		建築九州賞研究新人賞	日本建築学会九州支部	国内	
		日本コンクリート工学協会九州支部長賞	社団法人日本コンクリート工学協会九州支部	国内	
デザインストラテジー専攻	2011九州大学チャレンジ&クリエイションプロジェクト採択、総長賞	九州大学	国内		
平成 23 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本色彩学会第42回全国大会発表奨励賞	日本色彩学会	国内	
		日本生理人類学会発表奨励賞	日本生理人類学会	国内	
	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	日本音響学会 学生優秀発表賞	日本音響学会	国内	
		第4回学生優秀発表賞	日本音響学会	国内	
		日本音響学会九州支部学生表彰	日本音響学会九州支部	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	日韓学生パッケージデザインコンテスト 部門最優秀賞(団体)	アジア学生パッケージデザイン交流プロジェクト実行委員会		国際

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	日本タイポグラフィ年鑑 2010 学生部門ベストワーク賞	日本タイポグラフィ協会	国内	
	ピンクリボンデザイン大賞佳作 入賞	ピンクリボンフェスティバル 運営委員会	国内	
	しずおかデジタルコンテンツ グランプリ 2010 静止画部門 賞 (部門1位)	しずおかデジタル コンテンツグランプリ 実行委員会	国内	
	第16回CSデザイン賞学生部 門銅賞	中川ケミカル	国内	
	デザイン六大学展 最優秀賞	日本デザイン 学会第五支部	国内	
	The Organizing Committee of Nanjing Innovation Design Competition 入選2件	Organizing Committee of Nanjing		国際
	Baca-Ja(Broad Band Art and Contents Award Japan)最優秀 賞	関西テレビ	国内	
	第55回社団法人二紀会奨励賞	社団法人二紀 会	国内	
	ケルン国際デザインコンペ ディション	Organizing Committee of Nanjing		国際
	学生奨励賞	第4回Webと データベース に関するフォー ラム実行委 員会	国内	
	サイバーエージェント賞	第4回Webと データベース に関するフォー ラム実行委 員会	国内	
	「フューチャードリーム!ロ ボメカ・デザイン コンペ2011 入選2件	(社)日本機 械学会ロボテ イクス・メカ トロニクス部 門九州地区 競技会	国内	
	第2回 株式会社三松 アイ ディア・コンペティション	株式会社三松	国内	
	第2回 株式会社三松 アイ ディア・コンペティション	株式会社三松	国内	
	第6回日本感性工学会春季大 会 優秀発表賞	日本感性工学 会	国内	
	アジアデジタルアート大賞 2011入賞 静止画部門賞	アジアデジ タルアート大 賞実行委員会		国際
芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	平成22年度社団法人日本造園 学会主催松重開門公園周辺エ リア学生公開アイデアコンペ 佳作(団体:博士後期課程学 生も含む)	日本造園学会	国内	
	日本都市計画学会九州支部長 賞	日本都市計 画学会九州支 部	国内	
	2011年度 日本建築学会設計 競技「時を編む建築」九州 支部入選	日本建築学 会	国内	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

	デザインストラテジー 専攻	南京国際デザインコンペティ ション 2011 金賞受賞	“南京創造” デザインコン ペティション 組織委員会		国際
		国際デザインコンペ KOKUYO DESIGN AWARD 2011 優秀賞受賞	コクヨ株式会 社		国際
平成 24 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本人間工学会九州・沖縄支 部第 33 回大会 優秀発表賞受賞	日本人間工学 会九州・沖縄 支部	国内	
		日本人間工学会九州・沖縄支 部第 33 回大会・人類働態学会 西日本支部第 37 回大会 優秀 発表賞受賞 2 名	日本人間工学 会九州・沖縄 支部・人類働 態学会西日本 支部	国内	
		平成 27 年度 日本人間工学会 研究奨励賞受賞	日本人間工学 学会	国内	
	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科 学コース)	日本騒音制御工学会研究奨励 賞	日本騒音制御 工学会	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	第 19 回 ジャンプ SQ Supreme Comic 大賞 最終候補	集英社	国内	
		九州二紀会奨励賞	九州二紀会	国内	
		九州国展入選	国画会	国内	
		第 66 回二紀会奨励賞	社団法人二紀 会	国内	
		学生奨励賞	情報処理学会 データベース システム研究 会	国内	
		日本図学会第 6 回 デジタルモ デリングコンテスト 奨励賞	日本図学会	国内	
		第 10 回 Supreme Comic 大賞 seasonⅡ 最終候補	集英社	国内	
		学生デザインコンペ 2012 「う つくしいくらしをデザインす る」 優秀賞	IDA・KIGS	国内	
		日本機械学会 ロボメカ・デ ザインコンペ 2012 最優秀賞	日本機械学会	国内	
		第 6 回産業技術大学院大学デ ザインコンテスト 最優秀賞	産業技術大学 院大学	国内	
		第 6 回産業技術大学院大学デ ザインコンテスト 佳作	産業技術大学 院大学	国内	
		2012 アジアデジタルアート大 賞インタラクティブ部門グラ ンプリ	アジアデジタ ルアート大賞 実行委員会		国際
		学生プレゼンテーション賞 2 名受賞	電子情報通信 学会データ工 学研究専門委 員会	国内	
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	日本造園学会九州支部長賞 「最優秀研究事例報告賞」	日本造園学会 九州支部	国内	
		日本造園学会九州支部長賞 「Most Impressive 口頭発表 賞」	日本造園学会 九州支部	国内	
		九州大学ロバート・ファン/ア ントプレナーシップ・セン	九州大学 ロ バート・ファ	国内	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

		ター(QREC) チャレンジ&クリエーションC&C 九州大学 総長 特別賞	ン/アントレプレナーシップ・センター(QREC)		
	デザインストラテジー 専攻	建築文化週間学生グランプリ 銅賞	日本建築学会	国内	
		キルコス国際建築設計コンペティション 2012 近藤哲雄 賞・銅賞	キルコス国際建築コンペティション実行委員会		国際
平成 25 年度	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	優秀研究発表賞	情報処理学会 グラフィクスとCAD研究 運営委員会	国内	
		2013 Excellent Presentation Award	The IEEE Fukuoka Section	国内	
芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	第 87 回 国展 入選		国画会	国内	
	第 12 回 Supreme Comic 大賞 seasonⅡ 最終候補		集英社	国内	
	山本文房堂サムホール展奨励賞		山本文房堂	国内	
	サウンドアワード 2013 「奨励賞」		AES 日本学生支部	国内	
	E V 超小型モビリティデザイン国際コンテスト最優秀賞		電気自動車普及コンテスト		国際
	2013 福岡デザインアワード入賞		福岡産業デザイン協議会	国内	
	HCG オーガナイズドセッション賞		一般社団法人電子情報通信学会 ヒューマンコミュニケーショングループ	国内	
	情報処理学会九州支部奨励賞		情報処理学会九州支部	国内	
	日本機械学会 ロボメカ・デザインコンペ 2013 優秀賞		日本機械学会	国内	
	2013 アジアデジタルアート大賞展 福岡市長賞		2013 アジアデジタルアート大賞展実行委員会		国際
	2013 アジアデジタルアート大賞 静止画部門 入賞		2013 アジアデジタルアート大賞展実行委員会		国際
	2013 アジアデジタルアート大賞展 インタラクティブ部門 入賞		2013 アジアデジタルアート大賞展実行委員会		国際
	MUJI AWARD 04 銅賞		無印良品		国際
芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	日本造園学会九州支部長賞 「最優秀研究事例報告賞」		日本造園学会九州支部	国内	
	赤煉瓦ネットワーク奨励賞		任意団体「赤煉瓦ネットワーク」	国内	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

平成 26 年度	デザインストラテジー 専攻	建築文化週間学生グランプリ 銅賞	日本建築学会	国内	
		平成 25 年度 全映協 2013 学 生部門優秀賞	全国地域映像 団体協議会	国内	
	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	人類労働学会西日本地方会第 39 回大会奨励賞	人類労働学会 西日本地方会	国内	
		日本生理人類学会第 69 回大会 優秀発表賞	日本生理人類 学会	国内	
	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科 学コース)	日本音響学会学生優秀発表賞	日本音響学会	国内	
		日本音響学会 九州支部 学生 表彰	日本音響学会 九州支部	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	日本タイポグラフィ年鑑 2014 学生部門入選	日本タイポグ ラフィ協会	国内	
		第 6 回 九州・沖縄地区 学生 デザイン展 優秀賞	日本デザイン 学会	国内	
		第 68 回二紀展入選	二紀会	国内	
		ISCA (International Student Creative Award/国際学生ク リエーティブアワード) モバ イルアプリ部門最優秀賞	一般社団法人 ナレッジキャ ピタル、株式 会社 KMO		国際
		第 2 回九州国展入選	国画会	国内	
		第 88 回国展入選	国画会	国内	
		電子情報 通信学会 MVE 賞	電信情報通信 学会	国内	
		2014 アジアデジタルアート大 賞静止画部門 入賞	2014 アジア デジタルア ート大賞展実行 委員会		国際
		2014 アジアデジタルアート大 賞展インタラクティブアート 部門 入賞	2014 アジア デジタルア ート大賞展実行 委員会		国際
		北九州デジタルクリエイター コンテスト 2015 中谷 日 出 審査員賞	北九州デジタ ルクリエイター コンテスト 実行委員会	国内	
		優秀インタラクティブ賞	電子情報通信 学会データ工 学研究専門委 員会	国内	
		学生プレゼンテーション賞	第 7 回データ 工学と情報マ ネジメントに 関するフォー ラム実行委員 会	国内	
		日本機械学会ロボメカデザイ ンコンペ 2014 入賞	日本機械学会	国内	
	第 1 回 3Dモデリングコンテ ストスマートデバイス部門 グランプリ	アイティメデ ィア株式会社	国内		
デザインストラテジー 専攻	優秀賞	日本デザイン 学会第 5 支部	国内		
	BEST DESIGN CASE 賞	Design&Emoti on2014		国際	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

		福岡ビジネス・デジタル・コンテンツ賞 2015 大賞、しゅうちゃん先生賞	福岡県 Ruby・コンテンツビジネス振興会議	国内	
平成 27 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本生理人類学会第 71 回大会 優秀発表賞	日本生理人類学会	国内	
		日本生理人類学会第 72 回大会 優秀発表賞	日本生理人類学会	国内	
		日本人間工学会研究奨励賞	日本人間工学会	国内	
	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	第 14 回情報科学技術フォーラム (FIT2015) 奨励賞	FIT 情報科学技術フォーラム	国内	
		日本騒音制御工学会研究奨励賞	日本騒音制御工学会	国内	
		日本音響学会学生優秀発表賞	日本音響学会	国内	
		日本音響学会九州支部学生表彰	日本音響学会九州支部	国内	
		日本音響学会関西支部 奨励賞、特別賞	日本音響学会関西支部	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	九州二紀展入選	二紀会	国内	
		第 89 回国展入選	国画会	国内	
		第 3 回九州国展奨励賞	九州国展	国内	
		Honorable Paper Award	ACM IMCOM2016 プログラム委員会		国際
		第 7 回 九州・沖縄地区 学生デザイン展 優秀賞	日本デザイン学会	国内	
		日本機械学会ロボメカデザインコンペ 2015 入賞	日本機械学会	国内	
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	TOKYO DESIGN WEEK2015 学校作品展学校賞	デザインアソシエーション NPO		国際
TOKYO DESIGN WEEK2015 学校作品展学生賞入選		デザインアソシエーション NPO		国際	
2015 年度日本建築学会大会 (関東) 学術講演会 環境工学委員会 若手優秀発表		日本建築学会環境工学委員会	国内		
ベストポスター賞		文化的景観研究集会	国内		
デザインストラテジー専攻	JAMES DYSON AWARD ドイツ国内最優秀賞 (national winner)	ジェームズ・ダイソン財団		国際	
	JAMES DYSON AWARD 日本国内 3 位	ジェームズ・ダイソン財団		国際	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

デザインストラテジー 専攻	MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGNER AWARD 2015 榮久庵憲司賞	株式会社三菱ケミカルホールディングス	国内	
	北九州デジタルクリエイターコンテスト2016 入選	北九州デジタルクリエイターコンテスト実行委員会	国内	
	第7回九州・沖縄地区学生デザイン展 優秀賞	日本デザイン学会	国内	
	優秀賞	日本デザイン学会第5支部	国内	
	TOKYO DESIGN WEEK2015 学校作品展学校賞	デザインアソシエーションNPO		国際
	TOKYO DESIGN WEEK2015 学校作品展学生賞	デザインアソシエーションNPO		国際

注1：チャレンジ&クリエイション (C&C)

チャレンジ&クリエイション (C&C) は、本学に在籍する院生や学生が自ら企画するユニークな研究・調査プロジェクトについて、助成、実行のサポートする全学事業で、平成9年よりスタートし、九州大学の独自性を示す象徴的なプロジェクトである。院生・学生自らが若者らしい感性に基づくユニークな研究・調査プロジェクトを企画・計画し、自らが実践することで創造性発揮の喜びを知る機会を提供している。

(博士後期課程)

年度	専攻 (コース)	受賞名	組織	国内・国際
平成 22 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本生理人類学会 第62回大会発表奨励賞	日本生理人類学会	国内
		日本音楽知覚認知学会研究選奨	日本音楽知覚認知学会	国内
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	二紀展奨励賞	社団法人 二紀会	国内
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	日本造園学会九州支部長賞「最優秀研究事例報告賞受賞」	日本造園学会九州支部	国内
		最優秀賞	社団法人 日本技術士会	国内
デザインストラテジー専攻	第8回まちづくりに関する提案 最優秀賞	建設コンサルタンツ協会九州支部	国内	
平成 23 年度	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	学術奨励賞	東アジア日本語教育・日本文化研究学会	国際
		日本音響学会九州支部 学生表彰	日本音響学会九州支部	国内
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	Paper Award : Honorary Mention	ACM, Eurographics	国際
平成 24 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本生理人類学会第66回大会優秀発表賞	日本生理人類学会	国内
	芸術工学専攻 (デザイン人間科学国際コース)	Best Paper Award at 6th Int. Conf. on Genetic and Evolutionary Computing (ICGEC2012), Kitakyushu, Japan	ICGEC2012 Organization Committee	国際
		優秀講演賞	日本知能情報ファジィ学会九州支部	国内
	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	日本音響学会九州支部 学生表彰	日本音響学会九州支部	国内

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	絵画作品「be in underground」 第36回九州青年美術公募展 河北倫明賞受賞	九州青年美術 公募展・財団 法人大牟田文 化会館	国内	
		九州大学ロバート・ファン/ アントレプレナーシップ・セン ター(QREC) C&C 九州大学 総長 特別賞	九州大学 ロ バート・ファン/ アントレ プレナーシッ プ・センター (QREC)	国内	
	デザインストラテジー 専攻	2013 ICCE Young Scientist Paper Award	IEEE Consumer Electronics Society Japan Chapter		国際
平成 25 年度	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科 学コース)	Excellent Paper in 6th ISTD	6th Internationa l Symposium on Temporal Design (6th ISTD)		国際
		日本音響学会 九州支部 学生 表彰	日本音響学会 九州支部	国内	
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	The Best Short Paper Award	Nicograph Internationa l		国際
		日本感性工学会かわいい感性 デザイン賞 福岡地区賞	日本感性工学 会	国内	
		準会員賞	二紀会	国内	
		第13回シルバーアクセサリー コンテスト入選	アートクレイ 倶楽部事務局	国内	
		優秀研究発表賞	映像情報メデ ィア学会	国内	
		2013 アジアデジタルアート大 賞	2013 アジア デジタルア ート大賞展実行 委員会		国際
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	2013 アジアデジタルアート大 賞展 カテゴリーB 静止画 部門 大賞	2013 アジア デジタルア ート大賞展実行 委員会		国際
		赤煉瓦ネットワーク奨励賞 2 件	任意団体「赤 煉瓦ネットワ ーク」	国内	
	芸術工学専攻 (環境・遺産デザインコース)	絵画作品「都市の鼓動」第37 回九州青年美術公募展 審査 員特別賞受賞	大牟田市教育 委員会		国際
	デザインストラテジー 専攻	日本感性工学会 かわいい感 性デザイン賞	日本感性工学 会	国内	
	平成 26 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学国際コース)	Best Paper Award	1st Asian Conference on Ergonomics and Design	
芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)		日本生理人類学会第70回大会 発表奨励賞	日本生理人類 学会	国内	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

	芸術工学専攻 (コミュニケーションデザイン科学コース)	日本音響学会 学生優秀発表賞	日本音響学会	国内		
		日本音響学会 栗屋 潔学術奨励賞	日本音響学会	国内		
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)	学生奨励賞	ADADA Japan	国内		
		Best Technical Papers	Asia Art and Design Association		国際	
		筑後市議会議長賞	筑後市展	国内		
		2014 アジアデジタルアート大賞展 静止画部門 入賞	2014 アジアデジタルアート大賞展実行委員会		国際	
	平成 27 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	日本音響学会 栗屋 潔学術奨励賞	日本音響学会	国内	
			日本人間工学会研究奨励賞	日本人間工学会	国内	
優秀研究発表奨励賞			日本人間工学会第 56 回大会	国内		
Student poster award			12th International Congress of Physiological Anthropology		国際	
芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブデザインコース)		第 83 回日本版画協会版画展 (B 部門) 入選	日本版画協会	国内		
		優秀研究発表賞	情報処理学会グラフィックスと CAD 研究会	国内		
		日本音響学会 学生優秀発表賞	日本音響学会	国内		
		第 7 回 九州・沖縄地区 学生デザイン展 優秀賞	日本デザイン学会	国内		
デザインストラテジー専攻	フランス・モンレジョ名誉市民賞	フランス・モンレジョ市		国際		
	優秀賞	日本デザイン学会第 5 支部	国内			
	第 7 回 九州・沖縄地区 学生デザイン展 優秀賞	日本デザイン学会	国内			

2) その他学生の活動状況

デザインやアートを活用した福岡市等での地域貢献などに関する記事が多く掲載されており、実践的な芸術工学教育の成果が表れている(資料 50)。

○資料 50 その他学生の活動実績等(マスコミ等で取り上げられた事例等)

年度	新聞社	記事
平成 22 年度	毎日	白砂青松 福津の「海」を PR 九大大学院生ら制作
	西日本、日経、佐賀	新機能「桧原桜」を企画 大学院生
	朝日	桧原桜 能で舞う 大学院修士課程 2 年

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

	読売	九大、舞台支える人材育成 新作能 大学院生が挑戦
	読売	プロと協力、ゲーム制作 九大院生ら国際イベントに挑戦
	西日本	冷泉まちなみ演出プロジェクト 参加の九大生風車設置など紹介
	毎日	日本を学び 夢を追う 大学院芸術工学府修士課程留学生
	西日本、毎日、読売	アジア楽器と神楽競演 糸島市誕生祝い異都ジャズフェスタ ジャズと神楽競演 観覧希望者を募集
	西日本	廃材楽器展「サウンドリノベーション」
	毎日	九大とホールがタッグ 院生企画で3公演
	西日本	九大院生企画「花」をテーマに宗像市少年少女合唱団と共演
	毎日	地域に残る心温まるエピソード 能で語り継ごう
	西日本	九州大男子学生寮「井尻寮」活性化へアートを発信
	日経、西日本	「桧原桜」新作能に 九大院生発案で実現
	毎日	中州で夜だけのホコ天試験的に 九大大大学院生によるデジタルアート展示など
	西日本	まちづくりアイデア最優秀賞に 九大大大学院生
平成 23 年度	読売	障害者の絵を商品化社会参加支援へ芸術工学専攻の学生らが考案
	西日本	井尻商店街にアートカフェ九大など学生と組合がタッグ
	朝日	商店街に学生の活力 井尻+九大生=アート・カフェ
	西日本	「出会い」を街の活力に 父娘2代で九大で学ぶ留学生
	読売	筑前琵琶で人形浄瑠璃 本学院生ら
	読売、朝日	門司港駅舎に映像投影 本学大学院学生グループ
	朝日、毎日、西日本	大島の魅力 映画に 伝説題材に九大院生3人が制作
平成 24 年度	西日本	福岡市役所ロビーに本学院生らがデジタルアート
	朝日	アジアの若き英知が福岡で進化を遂げる
	西日本	人が動けば像が変化(デジタルアート)
	西日本	糸島舞台に連続ドラマ 豊かな自然温かさ発信
	読売	男女7人 糸島物語 九大院生らドラマ撮影へ「感動と興奮を」連ドラ撮影開始
	西日本	糸島舞台に連続ドラマ 学生ら商店街で撮影
	読売	映像で地域の活力引き出す
	毎日	「糸島の良さ 全国へ」九大院生が連ドラ自主製作
	西日本	糸島のドラマ「序章」が完成 市長に報告
	読売、西日本	釜山・福岡 大学生広報大使 九大生含む5名を任命
	朝日、西日本	シンガポールと日本の現代美術 九大生が企画展
平成 25 年度	西日本	九大生が企画 9日アクロス福岡にて音楽会
	西日本	福岡市のカワイイ区が優秀賞
	読売	障害者と子どもキャンパス交流
	朝日、西日本	大牟田カラー6色クレヨン NPO・九大院生ら11日発売
	西日本	福岡の女性が画面に登場し、方言で起こしてくれるアプリ「めざまし博多女子」を開発 九大大学院1年
	西日本	9日に音楽会「ミュージック・ファクトリー」開催 芸術工学府の授業の一環でホール運営を学ぶ九大生たちが企画
平成 26 年度	西日本	「自撮り」楽々九大生 アプリスマホ2台連動手ぶれなし 九大生4人が開発 近く無料配信
	西日本	物体の動作予測し映像照射 動くスクリーン
	毎日	学生と地域つなぐ部屋 芸術工学部生による「willeto」 九大修士1年
	西日本	からし高菜「今日だけ主役」 九大院生企画 南区大橋でイベント
	西日本	外国人学生が語る「ふるさととの街と福岡」(予告)
	読売	障害者の子供とキャンパス交流 「だんだんキャンパス」 大橋キャンパスで
平成 27	西日本、読売	宗像の課題 九大院生が調査 提言書を作成、8月めど発表

年度	読売	九大院生ら宗像団地調査
	西日本	チャング+テルミン・・・そして 和洋韓の楽器で即興
	西日本	本学芸術工学部学生団体 PanX プロジェクションマッピング×演劇のコラボレーション公演「IRIS (アイリス)」
	西日本	伝統産業の挑戦 技法生かした新ブランド 芸術工学研究院の学生たち (デザインストラテジー専攻)
	西日本	街の成り立ち後世に 本学院生、10年の記録本 (デザインストラテジー専攻)
	西日本	地域の歴史遺産 米軍ハウス巡る 春日、大野城市
	西日本	「九州の作曲、50年」福岡市で9日に公演 現代音楽の新たな魅力掘り起こす
	西日本	未知の現代音楽を体験する意味 公演「九州の作曲、50年」
	西日本、朝日	日の里再生 提案続々 宗像市 九大院生が現地調査報告「シニアのモデル都市に」日の里団地 院生提言
	読売	九大院生ら団地再生案 宗像・日の里地区
	読売	団地再生へ産学と連携 宗像市・日の里地区 空き家対策
	朝日	現代音楽の扉 たたいて 九州ゆかりの作品公開演奏会 技法追求から「聴きたいもの」へ
	西日本	わがまちの未来像 どう描くのか コンサルと違う視点で

2-1-(1)-③ 分析のまとめ

活発な論文発表と各種デザインコンペティション等の受賞状況は特に優れており（資料46～49）、総合的に判断すると、学習成果が上がっていると評価できる。

2-1-(2) 在学中や卒業・修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果

2-1-(2)-① 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

1) 全学共通フォーマットによる Web アンケート調査

ほぼ全ての項目にわたり肯定的であり、特に「未知の問題に取り組む姿勢」、「他人に自分の意図を明確に伝える能力」などの積極性やコミュニケーション力、そして専門分野の知識、分析力、アイデア・解決力等の高い専門性に関わる項目での評価が80%以上と高く、満足度も高い（資料51）。

○資料51 学習の達成度・満足度に関するアンケート調査の結果（全学共通フォーマットによる Web アンケート調査）

調査期間：平成27年10月26日～平成27年11月24日

（表中％表示は、少数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合がある。）

問1 「次の能力について向上したか」

次の能力について向上したか	大いに向上している	少し向上している	どちらとも言えない	あまり変わらない	全く変わらない	該当なし
未知の問題に取り組む姿勢	32 (48.5%)	25 (37.9%)	5 (7.6%)	1 (1.5%)	2 (3.0%)	1 (1.5%)
他人に自分の意図を明確に伝える能力	38 (57.6%)	23 (34.9%)	2 (3.0%)	2 (3.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)
自分の専門分野に対する深い知識や関心	37 (56.1%)	22 (33.3%)	4 (6.1%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

分析的に考察する能力	28 (42.4%)	30 (45.5%)	4 (6.1%)	2 (3.0%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)
新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力	27 (40.9%)	29 (43.9%)	5 (7.6%)	4 (6.1%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)
情報処理（コンピュータやインターネットの活用）の能力	26 (39.4%)	27 (40.9%)	6 (9.1%)	5 (7.6%)	1 (1.5%)	1 (1.5%)
討論する能力	27 (40.9%)	32 (48.5%)	4 (6.1%)	1 (1.5%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)
集団でものごとに取り組む能力	27 (40.9%)	25 (37.9%)	5 (7.6%)	5 (7.6%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)
記録、資料、報告書等の作成能力	27 (40.9%)	32 (48.5%)	4 (6.1%)	2 (3.0%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)
英語の運用能力	3 (4.6%)	28 (42.4%)	13 (19.7%)	16 (24.2%)	6 (9.1%)	0 (0.0%)
英語以外の外国語の運用能力	7 (10.6%)	9 (13.6%)	11 (16.7%)	11 (16.7%)	25 (37.9%)	3 (4.6%)
国際的に物事を考える力	6 (9.1%)	29 (43.9%)	18 (27.3%)	8 (12.1%)	5 (7.6%)	0 (0.0%)
人間や文化についての関心や理解	18 (27.3%)	30 (45.5%)	8 (12.1%)	6 (9.1%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)
社会についての関心や理解	19 (28.8%)	30 (45.5%)	9 (13.6%)	5 (7.6%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)

問2「学習目標は達成しているか」

学習は達成しているか	達成している	おおむね達成している	どちらとも言えない	あまり達成していない	達成していない	該当なし
授業	22 (33.3%)	33 (50.0%)	8 (12.1%)	3 (4.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
ゼミ（少人数教育）	22 (33.3%)	29 (43.9%)	8 (12.1%)	4 (6.1%)	1 (1.5%)	2 (3.0%)
研究指導	25 (37.9%)	24 (36.4%)	12 (18.2%)	4 (6.1%)	1 (1.5%)	0 (0.0%)
研究環境	16 (24.2%)	36 (54.5%)	10 (15.2%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

問3「九大での学習に満足しているか」

九大での学習に満足しているか	満足である	どちらかといえば満足である	どちらとも言えない	どちらかという不満である	不満である	該当なし
授業	19 (28.8%)	31 (47.0%)	8 (12.1%)	6 (9.1%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)
ゼミ（少人数教育）	22 (33.3%)	23 (34.9%)	12 (18.2%)	4 (6.1%)	3 (4.6%)	2 (3.0%)
研究指導	32 (48.5%)	19 (28.8%)	7 (10.6%)	4 (6.1%)	4 (6.1%)	0 (0.0%)
研究環境	20 (30.3%)	25 (37.9%)	11 (16.7%)	8 (12.1%)	2 (3.0%)	0 (0.0%)

2) 部局独自の学習の達成度・満足度に関するアンケート調査

専門性に関わる科学技術と芸術的感性の融合教育（高次のデザイナー教育）、企画・計画・設計に係わる解決能力など、芸術工学府独自の学習の達成度並びに満足度に関して大半の項目で70～80%の高い評価を得ている（資料52）。

○資料 52 学習の達成度・満足度に関するアンケート調査の概要

調査期間：平成 26 年 3 月及び平成 27 年 3 月

(表中％表示は、少数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計値が 100％にならない場合がある。)

問 1 「芸術工学府の教育はどの程度効果的だったか」

実施年度	項目	十分効果的である	やや効果的である	どちらとも言えない	あまり効果的でない	全く効果的でない	無回答
平成 25 年度	科学・技術に関する専門的な知識を身につけること	24 (26.7%)	42 (46.7%)	19 (21.1%)	4 (4.4%)	1 (1.1%)	
	創造的な芸術感性についての専門性を身につけること	22 (24.4%)	38 (42.2%)	13 (14.4%)	16 (17.8%)	1 (1.1%)	
	企画・計画・設計、課題解決能力を身につけること	38 (42.2%)	35 (38.9%)	13 (14.4%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)	
	幅広い学問分野を学ぶことで広い視野を涵養し、芸術工学の特性である総合性を身につけること	32 (35.6%)	40 (44.4%)	14 (15.6%)	4 (4.4%)	0 (0.0%)	
	学府の理念である「技術の人間化」に則した高次のデザイン能力を身につけること	18 (20.0%)	28 (31.1%)	32 (35.6%)	8 (8.9%)	3 (3.3%)	1 (1.1%)
平成 26 年度	科学・技術に関する専門的な知識を身につけること	16 (22.5%)	33 (46.5%)	12 (16.9%)	5 (7.0%)	5 (7.0%)	
	創造的な芸術感性についての専門性を身につけること	8 (11.3%)	27 (38.0%)	19 (26.8%)	14 (19.7%)	3 (4.2%)	
	企画・計画・設計、課題解決能力を身につけること	22 (31.0%)	35 (49.3%)	10 (14.1%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)	
	幅広い学問分野を学ぶことで広い視野を涵養し、芸術工学の特性である総合性を身につけること	19 (26.8%)	28 (39.4%)	14 (19.7%)	9 (12.7%)	1 (1.4%)	
	学府の理念である「技術の人間化」に則した高次のデザイン能力を身につけること	8 (11.3%)	27 (38.0%)	24 (33.8%)	12 (16.9%)	0 (0.0%)	

問 2 「修了・卒業に当たって学修や研究を通じて自分自身が身に付けた学力や能力について、どのように感じているか」

実施年度	非常に満足している	どちらかといえば満足している	どちらとも言えない	どちらかという満足していない	全く満足していない	無回答
平成 25 年度	27 (30.0%)	46 (51.1%)	13 (14.4%)	2 (2.2%)	1 (1.1%)	1 (1.1%)
平成 26 年度	19 (26.8%)	32 (45.1%)	14 (19.7%)	4 (5.6%)	0 (0.0%)	2 (2.8%)

2-1-(2)-② 分析のまとめ

在学中や卒業・修了時の状況から判断される学業の成果を把握するための取組とその分析結果は、総合的に見て良好である。全学共通フォーマットによる Web アンケート調査ではほぼ全ての項目にわたり肯定的であり、部局独自の学習の達成度・満足度に関するアンケート調査も高く評価されている。

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

単位修得率は90%前後であり良好である。標準修業年限内の修了率及び学位授与状況については、修士課程では高い修了率であるが、博士後期課程は低い。

このため、博士後期課程の課題に対する独自の取り組みとして、平成26年度に博士論文予備審査の申請条件に、芸術表現・デザインの実践に基づく研究においては、作品等制作活動が社会的に高い評価を受けたものに限り、査読付きの学術論文に代えることができる条件を新しく追加した。

学生が発表した論文は、発表分野の多様性や約半数が国際会議での発表であることに特色がある。特に、作品などの創作物での受賞が多く、芸術的な感性と論理的な思考力を合わせ持つ「高次のデザイナー」として国内外で高く評価されている。

学業の成果については態度、能力、知識に関わる項目での評価が高く、また満足度も高い結果であった。

以上の状況を踏まえて、総合的に判断すると、国内外の学会発表・論文発表、作品等の国内外での優れた受賞など、「高次のデザイナー」育成に則した教育課程、既成分野の壁を越えた指導的役割を果たす人材育成プログラム等の学習成果が期待する水準を上回るが、博士後期課程の学位授与率の低さに対する改善は進めているものの継続課題であることから、想定する関係者の期待する水準にあると判断する。

観点 2-2 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

2-2-(1) 進路・就職状況、その他の状況から判断される在学中の学業の成果の状況

2-2-(1)-① 進路の全般的な状況

修士課程修了後の産業別就職状況は、製造業と情報通信業への就職が最も多く、学術研究専門・技術サービス業などのアカデミックな職種の就職実績がある(資料 53、54)。

博士後期課程では、教育・学習支援業に携わる者が最も多い(資料 54)。

○資料 53 修士課程 修了後の進路状況(平成 27 年 5 月 1 日現在)

	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
大学院	9	5	14	7	7	14	4	6	10	7	4	11	5	1	6
就職	64	35	99	72	43	115	48	32	80	45	30	75	56	29	85
その他	14	7	21	13	24	37	22	25	47	29	18	47	24	16	40
計	87	47	134	92	74	166	74	63	137	81	52	133	85	46	131

○資料 54 産業別就職状況(人)(平成 27 年 5 月 1 日現在)

課程	分類	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
修士課程	農業・林業	0	0	0	0	1
	漁業	0	0	0	0	0
	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0	0
	建設業	8	10	6	10	13
	製造業	26	23	21	25	34
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	2	2	0	0
	情報通信業	42	42	20	14	16
	運輸業・郵便業	2	3	0	0	1
	卸売業・小売業	4	7	3	2	1
	金融業・保険業	0	2	0	2	0
	不動産業・物品賃貸	4	4	3	1	2
	学術研究専門・技術サービス業	2	11	13	7	3
	宿泊業・飲食サービス業	0	0	0	0	0
	生活関連サービス業・娯楽業	0	0	3	1	2
	教育・学習支援業	2	3	0	1	3
	医療・福祉	0	1	0	0	0
	複合サービス事業	0	0	2	2	3
	サービス業	6	5	2	3	1
	公務	2	2	3	2	2
上記以外	0	0	2	5	3	

出典：学校基本調査 平成 23 年度～平成 26 年度

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

課程	分類	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
博士後期 課程	農業・林業	0	0	0	0	0
	漁業	0	0	0	0	0
	鉱業・採石業・砂利採取業	0	0	0	0	0
	建設業	0	0	0	2	2
	製造業	0	2	1	0	0
	電気・ガス・熱供給・水道業	0	0	0	0	0
	情報通信業	1	2	1	1	0
	運輸業・郵便業	0	0	0	0	0
	卸売業・小売業	1	1	0	0	0
	金融業・保険業	0	0	0	0	0
	不動産業・物品賃貸	0	1	0	0	0
	学術研究専門・技術サービス業	0	1	6	3	2
	宿泊業・飲食サービス業	0	0	0	0	0
	生活関連サービス業・娯楽業	0	0	0	0	0
	教育・学習支援業	7	15	13	7	5
	医療・福祉	0	1	0	1	0
	複合サービス事業	0	0	0	0	0
	サービス業	1	0	0	0	0
公務	2	1	0	0	0	
上記以外	1	0	0	1	0	

出典：学校基本調査 平成23年度～平成27年度

2-2-(1)-② 就職の状況

1) 就職希望者の就職率及び就職先

修士課程修了者は、就職希望者の就職決定率は95%程度と高い水準にある。分野では製造業、情報通信業などで、多くは大手企業を中心に就職している。特に、芸術的感性と論理的思考力を合わせ持つ「高次のデザイナー」として、企業の新規事業の企画・開発や、異分野と社会のニーズとを繋げるコーディネータ的な業種に就いている学生もいることが芸術工学府の大きな特徴である。他方、博士後期課程修了者及び単位修得退学者は、就職希望者の就職決定率は90%程度であり、大学・研究機関の教員・研究者を多く輩出している（資料55、56）。

○資料55 就職希望者の就職率（平成27年5月1日現在）

(修士課程)

データ種別	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
就職者数	99	115	80	75	85
就職希望者数	102	123	80	84	91
就職率	97.1%	93.5%	100%	89.3%	93.4%

出典：進路状況調査 平成23年度～平成26年度

(博士後期課程)

データ種別	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
就職者数	13	24	21	15	9
就職希望者数	15	30	23	18	9
就職率	86.7%	80.0%	91.3%	83.3%	100.0%

出典：進路状況調査 平成23年度～平成26年度

○資料 56 就職先（具体名）（平成 27 年 5 月 1 日現在）
（修士課程）

年度	企業名
22	KDDI 株式会社、(株) 日立情報システムズ、(株) 博報堂エルグ、(株) リクルート、(株) ハット、財団法人小林理学研究所、設計機構ワークス、西日本技術開発株式会社、自営業、福岡市役所、福岡地所株式会社、独立行政法人水資源機構、楽天株式会社、森ビル株式会社、株式会社 NTT データ九州、株式会社 NTT データ、株式会社 NHK アート、株式会社 電通九州、株式会社 電通、株式会社 能登、株式会社 生方製作所、株式会社 昭和システムエンジニアリング、株式会社 日立製作所、株式会社 日立ソリューションズ、株式会社 日立インスファーマ、株式会社 富士通ソフトウェアテクノロジーズ、株式会社 富士通システムソリューションズ他
23	NTT 都市開発株式会社、Hiroyuki Arima+Urban Fourth Co. Ltd、(株) NTT データ、(株) NTT アドバンステクノロジー、(株) NHK メディアテクノロジー、(株) LIXIL、(株) IBJ、(株) 西日本シティ銀行、(株) ケセラセラ、(株) オープンハウスディベロップメント、(株) アーキネット、鹿島建設、韓国にて起業（会社名不明）、電通、関西テレビ放送株式会社、財団法人成田国際空港振興協会、西部ガス株式会社、西日本鉄道株式会社、積水化学工業（株）、福建富士通（中国）、福岡市役所、独立行政法人労働者健康福祉機構、瀋陽市日本語特殊中学（中国）、泰星学園、楽天株式会社、株式会社 電通レイザー
24	TIS 株式会社、NTT コミュニケーションズ株式会社、LMSJAPAN. K.、(株) 東京技術計算コンサルタント、(株) ニトリ、(株) アートデザインセンター、飛騨産業株式会社、遠藤照明、西日本高速道路サービスホールディングス、西日本新聞社、福岡市、石橋楽器店、毎日新聞社、株式会社 SRA、株式会社 東芝、株式会社 放送サービスセンター、株式会社 岡村製作所、株式会社 博報堂プロダクツ、株式会社 ローソン、株式会社 データ・テック、株式会社 ソリッドレイ研究所、株式会社 ジーエータップ、株式会社 ジュピターテレコム、株式会社 サイバーエージェント、株式会社 エスジェーケー、株式会社 ビデオ・ステーション・キュー、株式会社 GK グラフィックス、日立製作所
25	(株) プランテックコンサルティング、(株) 日立システムズ、(株) 楽天、CRAFTS、TSP 太陽株式会社、WDB 株式会社、エルエムエスジャパン株式会社、ソフトバンクモバイル株式会社、パイオニア株式会社、パナソニックシステムネットワークス、パナソニック株式会社、プラチナゲームズ株式会社、ポーズ株式会社、モリタホールディングス、ヤフー株式会社、リオン株式会社、リクシル、丸栄産業株式会社、公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団、医療システムズ株式会社、国土交通省、大創産業、安藤忠雄建築研究所、富士通九州ネットワークテクノロジーズ株式会社、富士通株式会社、岡村製作所、日本光電工業株式会社、日本生命保険相互会社、株式会社 OKI ソフトウェア、株式会社 エポック社、株式会社 エージェントプラス、株式会社 クリーク・アンド・リバー社、株式会社 シマノ、株式会社 スプラッシュ、株式会社 ゼネラルアサヒ、株式会社 フェューチャーアーキテクト、株式会社 ポニーキャニオン、株式会社 ミドリ印刷、株式会社 リコー、株式会社 三好不動産、株式会社 博展、株式会社 岡村製作所、株式会社 日本コンピュータ・アソシエーツ、株式会社 東和エンジニアリング、株式会社 東芝、竹中工務店
26	株式会社 プレディ、岩崎グループ（株式会社）、大和ハウス工業株式会社、株式会社 ジーエークロッシング、フェューチャーアーキテクト株式会社、藤本壮介建築設計事務所、富士通システムズ・イースト、ヤマハ発動機株式会社、リオン株式会社、株式会社 日立ビルシステム、小糸製作所、株式会社 小松製作所、ダイキン工業株式会社、電通九州、ソフトバンクモバイル、(株) 竹中工務店、(株) 日立ソリューションズ、パナソニック株式会社、(株) クラリオン、フォスター電機株式会社、日本放送協会、FBS 福岡放送、日本アイ・ビー・エム株式会社、(株) シマノ、シーメンスイ：ダストリーソフトウェア株式会社、Sony EMCS (Malaysia) Sdn.Bhd、日本電気株式会社、パナソニック株式会社、株式会社 アニモ、株式会社 東芝、チームラボ、株式会社 IMAGICA、キャノン株式会社、日立オートモティブシステムズ株式会社、島津製作所、TOA 株式会社、株式会社 日展、全国農業協同組合連合会、株式会社 ブラビス・インターナショナル、国土交通省九州地方整備局、福岡市役所、玉野総合コンサルタント、高島屋スペースクリエイツ株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、大成建設株式会社、株式会社 円工房、ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社、東畑建築事務所、堺ディスプレイプロダクト株式会社、株式会社 オムニバス・ジャパン、株式会社 パワーエッジ、凸版印刷株式会社、株式会社 ベネッセコーポレーション、山佐株式会社、パナソニックシステムネットワークス株式会社、NTT ビジネスソリューションズ株式会社、MHI 情報システムズ株式会社、(株) LIXIL、密野開発、凸版印刷株式会社、広島テレビ放送株式会社、リクルートライフスタイル、三菱自動車工業、河渟株式会社、株式会社 タカラトミー、リクルートマーケティングパートナーズ、富士通株式会社、電通、九州朝日放送、九州大学、株式会社 ラックランド、九州旅客鉄道株式会社、京セラコミュニケーションシステム株式会社、アーキテクト懂株式会社、株式会社 セガ、(株) SKIYAKI

(博士後期課程)

年度	企業名
22	長崎県、西南女学院大学、ギャラリー「風向」、純真学園大学、私立大学講師、株式会社ネプロアイティ、崇城大学、富山大学、厚生労働省、九州大学、Manycolors 株式会社、Apple Store 福岡
23	TOTO 株式会社、IAED 建築・環境設計、鹿児島女子短期大学、長崎ウエスレヤン大学、金沢美術工芸大学、福岡工業大学短期大学部、福山大学、熊本県、株式会社エイブル、有限会社ルネッサンス、日本赤十字九州国際看護大学、日本科学未来館、成均館大学（韓国）、帝京大学、崇城大学、大連理工大学（中国）、住友林業株式会社、九州職業能力開発大学、九州産業大学、九州大学病院別府病院、サンコー・コミュニケーションズ株式会社、キヤノン株式会社、Universitas Indonesia（インドネシア）
24	（株）毎日放送、純真学園大学（純真短期大学）、福山平成大学、神戸芸術工科大学、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人日本原子力研究開発機構、武蔵野制振研究所、梨花女子大学、日産自動車（株）、崇城大学、山口学芸大学、公益財団法人長崎ミュージアム振興財団、九州大学大学院医学研究院、九州大学、久留米信愛女学院短期大学、中村産業学園九州造形短期大学、モンゴル国立大学、ハサヌッディン大学
25	（中国）四川大学、Institute of Science and Technology Austria、JSOL、会津大学
26	一字一級建築士事務所、福岡女学院大学、Malaysia Japan Higher Education Program in University Kuala Lumpur、Gold Mantis Enterprise (Group) Suzhou Gold Mantis Exhibition Design&Engineering Co., ltd、暨南大学、（株）NS ソリューションズ西日本、韓国文化技術研究所、深圳大学、デジタルハリウッド大学

2-2-(1)-③ その他の修了生の活動の状況

1) 修了生の受賞状況

多数の受賞があり、特に、技術的・社会的な創意工夫が求められる芸術的感性と論理的な思考力を合わせ持つアジアデジタルアート大賞や福岡デザインアワード大賞など（太字部分）、国内外の多数のデザインコンペティションで高い評価を得ている（資料 57）。

○資料 57 修了生の国内・国際学会及び各種コンペティション等の受賞

〔受賞内容が在籍時のものも含まれる〕

年度	修了専攻（コース）	受賞名	組織名	国内・国際	
平成 23 年度	芸術工学専攻 （デザイン人間科学コース）	優秀発表奨励賞	日本生理人類学会第 64 回大会	国内	
	芸術工学専攻 （コミュニケーションデザイン科学コース）	学生優秀発表賞	日本音響学会 2011 年（島根大学）	国内	
	芸術工学専攻 （コンテンツ・クリエティブデザインコース）	優秀発表賞	第 6 回日本感性工学会春期大会	国内	
	芸術工学専攻 （環境・遺産デザインコース）	九州支部入選	2011 年度日本建築学会	国内	
	デザインストラテジー 専攻	金賞	デザイン都市・神戸推進会議 ISSUE+DESIGN COMPETITION	国内	
コクヨデザインアワード 2011 優秀賞受賞		コクヨ株式会社	国内		
平成 24 年度	芸術工学専攻 （デザイン人間科学コース）	優秀発表賞	日本生理人類学会第 67 回大会	国内	
	芸術工学専攻 （コミュニケーションデザイン科学コース）	優秀研究発表賞	情報処理学会グラフィックスと CDS 研究会第 148 回研究発表会	国内	
		学習奨励賞、サイバーエージェント賞	WedDB フォーラム 2011	国内	

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	「うつくしいくらしをデザインする」 優秀賞	北九州イノベーションギ ャラリー JIDA・KIGS DESIGN COMPETITION 2012 FOR STUDENTS	国内		
	デザインストラテジー 専攻	若手論文賞	IEEE ICCE		国際	
平成 25 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	学生優秀発表賞	九州大学 C&C2011 研究助 成	国内		
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	Excellent Paper	6 th International Symposium on Temporal Design(6 th ISTD)			国際
		優秀研究発表賞	映像情報メディア学会	国内		
		グランプリ (最優秀 賞)	電気自動車普及協議会	国内		
		銅賞	MUJI DESIGN INTERNATIONAL COMPETITION 04	国内		
		2013 アジアデジタ ルアート大賞	2013 アジアデジタルア ート大賞展実行委員会			国際
	成績優秀賞	電子情報通信学会	国内			
デザインストラテジー 専攻	金賞	(株)電通電通インター ンシップ	国内			
平成 26 年度	芸術工学専攻 (デザイン人間科学コース)	奨励賞	人類働態学会西日本地方 回第 39 回大会	国内		
	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	2014 アジアデジタ ルアート大賞展 静止画部門 入賞 (団体)	2014 アジアデジタルア ート大賞展実行委員会		国際	
	デザインストラテジー 専攻	雑貨大賞 2014 く らし雑貨部門フ ァイナリスト入 選 (団体)	株式会社ヴィレッジヴァ ンガードコーポレー ション	国内		
		BEST DESIGN CASE 賞	第 9 回 Design & Emotion2014	国内		
		福岡デジタル・ビ ジネス・コンテン ツ賞 2015 福岡県知 事賞 (大賞)	福岡県 Ruby・コン テンツビジネス振 興会議	国内		
福岡デジタル・ビ ジネス・コンテン ツ賞 2015 福岡県 ユーザー賞 (し ゅちゃん先生賞 または特別賞)	福岡県 Ruby・コン テンツビジネス振 興会議	国内				
平成 27 年度	芸術工学専攻 (コンテンツ・クリエイティブ デザインコース)	2015 福岡デザ イン アワード 大賞	福岡県産業デザ イン協 議会	国内		

2) 新聞記事等で取り上げられた修了生

新聞記事等で取り上げられた修了生は、資料 58 に示すとおりである。特に、デザインやアートを活用したプロジェクトの地域貢献などや漫画大賞等受賞に関する記事が多く掲載されており、学術のみならず各産業界で高い評価を得ている。

○資料 58 その他修了生の活動実績等（マスコミ等で取り上げられた事例等）

年度	新聞社	記事
平成 22 年度	日本経済	高齢者施設の設計 誰もが快適なデザインに
平成 23 年度	毎日	「家づくり」とは「家族づくり」＝松本輝紀さん＝34 歳・建築家
平成 24 年度	西日本	2015 年廃校「山川南部小を映像に」 小田憲和さんが映画製作 <九大卒>
	毎日	表現の新しさ求めて 松尾高弘 美術家としての 10 年
	毎日	降り注ぐ光 福岡でアート展 松尾高弘さん
平成 25 年度	西日本	誰でも演奏家 アプリ世界一「新世代楽器」 福岡市の中村俊介さん 九州芸術工科大博士課程時に技術開発、起業
平成 26 年度	日刊工	ニッパツ新執行役員精密ばね生産本部副本部長兼伊那工場長に高村典利氏<九大卒>
	読売	アプリで皆を笑顔に 誰でも演奏家になれるアプリを開発 中村俊介さん<九大卒>
	西日本	新世代アートフロンティア 気軽に楽しく「体験してほしい」 男性 4 人グループ「anno 1ab」代表 藤岡定さん<九大卒>
平成 27 年度	朝日	キングダム 第 17 回手塚治虫文化賞漫画大賞受賞作(新聞 4 面) 原泰久氏<九州芸工大卒>

2-2-(1)-④ 分析のまとめ

以上のように、進路・就職状況等の状況から判断される在学中の学業の成果の状況は、総合的に見て良好である。特に、企業の新規事業の企画・開発や、異分野と社会のニーズとを繋げるコーディネータ的な業種に就いている学生もいることが本学府の大きな特徴である。博士後期課程では大学・研究機関に教員・研究者を多く輩出している。これは本学府において高度な専門的知識や技能とともに研究能力が習得されたことを反映している。

その他の卒業・修了生の活動の状況は、学術のみならず国内外のデザインコンペティションで優れた受賞や新聞掲載記事など、各産業界で高い評価を得ている。

したがって、上記の進路・就職状況等の状況から判断される在学中の学業の成果の状況を踏まえて、総合的に判断すると、「高次のデザイナー」を養成するという本学府の教育目的を十分に達成し、学習成果が上がっていると評価できる。

2-2-(2) 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果
--

2-2-(2)-① 修了生に対する意見聴取の結果

資料 59 に示すとおり、修了生においても、未知の問題に取り組む姿勢などの項目や、専門分野の知識、新たなアイデアなど能力向上項目の評価は、87%以上が肯定的であり、専門分野の達成度や満足度は在校生よりも高く 88%以上が、さらに専門教育・研究活動の有用性に関しても 82%以上が肯定的であった。

○資料 59 卒業・修了生についての意見聴取の結果 (Web アンケート調査)

調査期間：平成 27 年 9 月 28 日～平成 27 年 11 月 16 日

(表中％表示は、少数点以下第 2 位で四捨五入しているため、合計値が 100%にならない場合がある。)

問 1 「向上した能力について」

次の能力について向上したか	大いに向上した	少し向上した	どちらとも言えなかった	あまり変わらなかった	全く変わらなかった	該当なし
未知の問題に取り組む姿勢	55 (52.9%)	38 (36.5%)	6 (5.8%)	4 (3.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
自分の専門分野に対する深い知識や関心	61 (58.7%)	39 (37.5%)	1 (1.0%)	2 (1.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力	41 (39.4%)	50 (48.1%)	9 (8.7%)	2 (1.9%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
分析的に考察する能力	41 (39.4%)	55 (52.9%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
記録、資料、報告書等の作成能力	48 (46.2%)	46 (44.2%)	7 (6.7%)	2 (1.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
他人に自分の意図を明確に伝える能力	41 (39.4%)	52 (50.0%)	6 (5.8%)	5 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
人間や文化についての関心や理解	40 (38.5%)	47 (45.2%)	9 (8.7%)	4 (3.9%)	3 (2.9%)	1 (1.0%)
情報処理 (コンピュータやインターネットの活用) の能力	46 (44.2%)	38 (36.5%)	9 (8.7%)	7 (6.7%)	4 (3.9%)	0 (0.0%)
討論する能力	29 (27.9%)	54 (51.9%)	13 (12.5%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
集団でものごとに取り組む能力	31 (29.8%)	43 (41.4%)	18 (17.3%)	11 (10.6%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
社会についての関心や理解	29 (27.9%)	46 (44.2%)	16 (15.4%)	8 (7.7%)	3 (2.9%)	2 (1.9%)
国際的に物事を考える力	22 (21.2%)	30 (28.9%)	23 (22.1%)	17 (16.4%)	11 (10.6%)	1 (1.0%)
英語の運用能力	8 (7.7%)	30 (28.9%)	18 (17.3%)	28 (26.9%)	19 (18.3%)	1 (1.0%)
英語以外の外国語の運用能力	9 (8.7%)	13 (12.5%)	9 (8.7%)	27 (26.0%)	34 (32.7%)	12 (11.5%)

問2「学習目標の達成について」

学習目標を達成しているか	達成できた	少し達成できた	どちらとも言えなかった	あまり達成できなかった	達成できなかった	該当なし
専門以外の幅広い教育	24 (23.1%)	50 (48.1%)	22 (21.2%)	4 (3.9%)	2 (1.9%)	2 (1.9%)
専門の教育	49 (47.1%)	47 (45.2%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
研究活動	48 (46.2%)	44 (42.3%)	7 (6.7%)	4 (3.9%)	1 (1.0%)	0 (0.0%)
論文作成	45 (43.3%)	44 (42.3%)	8 (7.7%)	7 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
実習、インターンシップやボランティア活動	24 (23.1%)	35 (33.7%)	21 (20.2%)	14 (13.5%)	6 (5.8%)	4 (3.9%)

問3「満足度について」

学習の満足度	満足だった	少し満足だった	どちらとも言えなかった	少し不満だった	不満だった	該当なし
専門以外の幅広い教育	38 (36.5%)	38 (36.5%)	15 (14.4%)	11 (10.6%)	0 (0.0%)	2 (1.9%)
専門の教育	51 (49.0%)	41 (39.4%)	4 (3.9%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
研究活動	46 (44.2%)	41 (39.4%)	8 (7.7%)	9 (8.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
論文作成	36 (34.6%)	38 (36.5%)	21 (20.2%)	7 (6.7%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
実習、インターンシップやボランティア活動	24 (23.1%)	29 (27.9%)	33 (31.7%)	9 (8.7%)	3 (2.9%)	6 (5.8%)

問4「修得した学習成果の有用性について」

次のことは修了後に役に立っているか	とても役に立っている	役に立っている	どちらとも言えない	役に立っていない	全く役に立っていない	該当なし
専門以外の幅広い教育	32 (30.8%)	40 (38.5%)	21 (20.2%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	3 (2.9%)
専門の教育	44 (42.3%)	42 (40.4%)	9 (8.7%)	5 (4.8%)	4 (3.9%)	0 (0.0%)
研究活動	44 (42.3%)	43 (41.4%)	9 (8.7%)	5 (4.8%)	3 (2.9%)	0 (0.0%)
論文作成	36 (34.6%)	44 (42.3%)	16 (15.4%)	6 (5.8%)	2 (1.9%)	0 (0.0%)
実習、インターンシップやボランティア活動	24 (23.1%)	28 (26.9%)	34 (32.7%)	9 (8.7%)	3 (2.9%)	6 (5.8%)

修了生からの意見・要望等の概要

It is heartening to see that the Graduate School of Design is building towards a more international education landscape to provide wider exposure for local and foreign students. I hope that the faculty will continue towards this effort. Thank you very much.

社会人博士なので、学生の感想と異なる部分が多々あると思います。
また、芸術工学は稀有な分野ですが、日本社会の成熟とともに世の中が、芸術工学の理念に近づいてきた気がしています。
日本だけでなく、世界の大学の羅針盤となるような、広い視野を持った教育・研究を期待しています。

仕事に役立つ技術も習得できたが、何よりデザイン的な視点で物事を見られるようになって、人生が楽しくなった。

芸工独特の授業が多く、就職後の仕事に直結するような授業はあまりないが、そのような点が私にとってはとても有意義だった。振り返ってみると、とても充実した学生生活を送れたように思う。

大学院の授業で、プレゼンテーションを受講しとても為になりましたが、学部の早いうちに受講したかったと感じました。
デザインストラテジー専攻では、デザインの社会での重要性を学びました。学部の時に専門知識を受けながら、「私は何のためにデザインしたいのか」分からず悩んだ経験があります。院で学ぶ広い視野のデザインを、学部生が知れる機会があると、早い時期に目標が見つけれられて良いのではないかと感じます。
先生方の専門性が多岐にわたっていること、研究に集中する環境があること、研究テーマの自由度の高さ、またフィールドワークが充実しているという点においては、非常に恵まれていると思う。
現在、大学で学んだこととは異なる分野の会社で働いているため、専門の内容について知識が深まってよかった、というよりも、もの見かた、考え方、生き方、友人などの面で得たものが非常に大きかったと思っています。
芸術工学府における4年間（研究生2年+修士2年）は自分にとって大きな成長を達成しました。物事や問題を考える力が以前より大きく育ったと感じました。また、研究以外の生活でも芸術工学府から大きな支援をいただきました。特に留学生への支援は非常にありがたく思います。
芸術工学府を卒業してまだ半年ですが、答えのない課題を複数人で議論しながら解決するという授業がたくさんある芸工の教育は、実社会の課題に取り組む姿勢に近いと感じ、そんな課題に取り組める芸工に入学して良かったなと感じます。
博士論文執筆期間、様々な先生方と出会い、担当教官には熱心な指導を賜り、学友のまじめな雰囲気心打たれました。私にとって、どれをとってもかけがいのない財産となりました。芸術と工学また文系理系の境界領域をさらに深め、世界をリードする学府であり続けて欲しいと望みます。

2-2-(2)-② 就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取

就職先・進学先等の関係者に対する意見聴取は、有効回答数が17件と少なかつたため量的な評価は難しいが、総合的に見て良好である。アンケート調査（資料60）では、特に幅広い知識、表現能力を習得し、チームワーク能力を有するとの評価が76～94%と高く、意見・要望では、組織の中で活躍できリーダーシップ能力とアイデア創出能力のバランスがとれた人材を育成しているなどの肯定的意見があった。

○資料60 就職先・進学先等の関係者への意見聴取結果（アンケート調査）

（表中％表示は、少数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100%にならない場合がある。）
調査期間：平成27年10月8日～平成27年11月16日

就職先における現在の能力	大変優れている	優れている	どちらとも言えない	劣る	極めて劣る	該当なし
幅広い教養・知識を身につけている	5 (29.4%)	10 (58.8%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
知識や情報を集めて自分の考えを文章や画像等で表現する能力がある	6 (35.3%)	10 (58.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
豊かな創造性と表現力がある	8 (47.1%)	8 (47.1%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
チームを組んで特定の課題に適切に取り組む能力がある	5 (29.4%)	8 (47.1%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
専門分野の知識がしっかり身につけている	7 (41.2%)	8 (47.1%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
計画・設計能力や企画・開発能力がある	2 (11.8%)	11 (64.7%)	3 (17.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
専門分野に関連する他領域の基礎知識	3 (17.7%)	9 (52.9%)	5 (29.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

識が身につけている						
プレゼンテーション能力がある	4 (23.5%)	8 (47.1%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
実務能力やマネジメント能力がある	4 (23.5%)	8 (47.1%)	4 (23.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
企画調整能力や企画推進能力がある	3 (17.7%)	8 (47.1%)	4 (23.5%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
プロジェクト調整型のリーダーシップがとれる	3 (17.7%)	6 (35.3%)	5 (29.4%)	2 (11.8%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)
仕事に対する使命感や責任感が強い	7 (41.2%)	7 (41.2%)	3 (17.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
国際コミュニケーション能力、異文化理解能力がある	0 (0.0%)	7 (41.2%)	9 (52.9%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
期待通りの活躍をしている	5 (29.4%)	10 (58.8%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)

就職先や進学先等の関係者からの意見・要望等の概要

- ・大変優秀な方に入社していただいたと思っております。NHK の関連会社ですので音響に関する業務ばかりではありません。もちろん音響の知識は必要ですが、それ以外の建築技術を幅広く習得されるよう大学教育でも学生指導をお願いできればと思います。
- ・専門的知識だけでなく様々な面で高い能力を有しており、組織の中で活躍することのできる方々が多いです。
- ・様々な業務を正確に実行させつつ、同時に後輩の育成等でもその能力を発揮されている。
- ・大卒技術系社員へのリーダーシップ能力と新規アイデア創出のバランスに優れている。九大との共同研究の中心的業務も行っている。

2-2-(2)-③ 分析のまとめ

以上のように、修了生、進路・就職先等の関係者への意見聴取とその分析結果は、総合的に見て良好である。修了生からの専門分野の達成度、満足度及び有用性に関する評価は82%が肯定的であった。進路先・就職先等からは、特に、幅広い知識を有しチームワーク能力の評価が高く、組織の中で活躍できリーダーシップ能力とアイデア創出能力のバランスがとれた人材を育成しているなどの肯定的意見があった。

したがって、上記の分析結果を踏まえて総合的に判断すると、学習成果が上がっていると評価できる。

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

本学府の修士課程の就職状況は、デザインに関連する業種を有する国内有数の企業等を中心に広範囲にわたって就職し活躍している。特に、企業の新規事業の企画・開発や、異分野と社会のニーズとを繋げるコーディネータ的な業種に就いている学生もいることが芸術工学府の大きな特徴である。博士後期課程では大学・研究機関に教員・研究者を多く輩出している。また、学生が学術のみならず国内外のデザインコンペティションで優れた賞を受賞するなど、各産業界で高い評価を得ている。

修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果は、総合的に見て良好であり、特に就職後の専門分野の有用性が82%と高い評価を得ており、チームワーク能力の評

九州大学芸術工学府 分析項目Ⅱ

価値が高く、組織の中で活躍できリーダーシップ能力とアイデア創出能力のバランスがとれた人材育成が評価されている。

以上の状況を踏まえて、総合的に判断すると、問題解決のための専門知識の応用、学術や社会への影響を見据えたプロジェクトや課題解決型学習（PBL）などの実践的な教育と、実務経験を有する教員の適切な配置による教育成果の現れであり、想定する関係者の期待する水準を上回ると判断する。

Ⅲ 「質の向上度」の分析

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

○教育実施体制

第1期中期目標期間末から比べ芸術工学府におけるイノベーション創出のために、デザインの計画・実践と芸術表現に関わる教員の業績評価の指針を定め、採用や昇格に際して効果を上げ、デザインの実務経験を有する教員を多く配置している（資料2、3～4頁）。さらに、女性教員が増員され、外国人教員とともに多様な教員をバランスよく配置した教育実施体制としている（資料61）。「高次のデザイナー」の養成という教育目的を達成するための工夫や内部質保証が十分に機能し、学生の国内外での学会発表、論文発表やデザインコンペティション等受賞（資料62）など、学生たちの大きな成果に結びついている。

○資料61 教員配置の状況

年度	課程	女性教員比率	外国人教員比率
平成22年度	修士課程	6.5%	3.2%
	博士後期課程	4.8%	3.6%
平成27年度	修士課程	15.3%	3.5%
	博士後期課程	12.7%	3.8%

○資料62 学生の受賞状況

第1期の 受賞件数	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
	20	15	24	18	26	20
第2期の 受賞件数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	23	32	31	32	29	37

○教育内容・方法

第1期期間中に実施した学府の再編が、専門性の強化や実践的な科目配置、複数教員による授業科目の開設、他学府との連携など、教育課程編成において効果的な取組が多い。特に、修士作品の審査及び博士論文審査における作品や芸術表現の審査に学位授与に関する取扱いについて明確な審査基準（資料20、18頁）を示し、芸術表現・デザインの実践に基づく研究を積極的に評価する制度設計を実施・運用している。また、英語による授業を行う国際コースの設置などと合わせて、海外提携大学との連携を推進している（資料25～28、19～23頁）。芸術工学府の教育目的等を達成するための工夫が機能し、大きな成果を上げている。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

○学業の成果

第1期中期目標期間末以降、修士課程では高い修了率である。博士後期課程では、平成26年度に博士論文予備審査の申請条件に、芸術表現・デザインの実践に基づく研究においては、作品等制作活動が社会的に高い評価を受けたものに限り、査読付きの学術論文に代えることができるとする条件を新しく追加した（資料20、18頁）。特に、国内外の学会発表・論文発表、作品等の国内外での優れた受賞など、「高次のデザイナー」育成に則した教育課程、既成分野の壁を越えた指導的役割を果たす人材育成プログラム等の学習成果が上がっている。

○進路・就職の状況

修士課程の就職状況は、デザインに関連する業種を有する国内有数の企業等を中心に、広範囲にわたって就職し活躍している（資料 56、50～51 頁）。修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果は、総合的に見て良好であり、特に就職後の専門分野の有用性が 82%と高い評価を得るなど人材育成が評価されている。これらの成果は、芸術工学府の実践的な教育、実務経験を有する教員の適切な配置による教育成果の現れである。